




# 埋蔵文化財センター積善分館内部改修工事（第二期） （建築・電気設備）

図面リスト					
図番 No	図名	SCALE	図番 No	図名	SCALE
A-00	タイトル・図面リスト	-	A-11	旧サービス棟1階 収蔵室7 改修前・改修後 天井伏図	1/50
A-01	改修工事特記仕様書（1）	-	A-12	旧サービス棟1階 収蔵室7 改修前展開図	1/50
A-02	改修工事特記仕様書（2）	-	A-13	旧サービス棟1階 収蔵室7 改修後展開図	1/20 1/50
A-03	改修工事特記仕様書（3）	-	A-14	建具表 旧サービス棟	1/50
A-04	改修工事特記仕様書（4）	-	A-15	仮設計画図（参考図）	1/100 1/600
A-05	改修工事特記仕様書（5）	-			
A-06	改修工事特記仕様書（6）	-	E-01	電気設備工事特記仕様書（1）	-
A-07	付近見取図・配置図・概略工事工程表	1/600	E-02	電気設備工事特記仕様書（2）	-
A-08	工事概要・内部仕上表	-	E-03	動力設備 旧サービス棟1階 収蔵室7 改修図、撤去図	1/100
A-09	全体平面図	1/300			
A-10	旧サービス棟1階 収蔵室7 改修前・改修後 平面詳細図	1/3 1/20 1/50			



CONSTRUCTION NAME	埋蔵文化財センター積善分館内部改修工事（第二期）（建築・電気設備）
DRAWING NAME	タイトル・図面リスト

 **コダニ建築環境設計(有)**  
一級建築士 河野雄一郎 大臣登録 第 376081 号

SCALE	DATE	DRAWING BY	CHECKED BY
-	R6/11		
PROJECT NO	DRAWING NO		
	A-00		

建築改修工事仕様書

I. 工事概要

- 1. 工事場所 鳥取市国府町宮下
2. 敷地面積 9.407 m^2
3. 地域地区 都市計画地域(内・外) 市街化調整区域(内・外)
用途地区(一種中高層住居・一種住居) 防火地域(指定なし)
4. 建物概要

Table with columns: 番号, 名称, 工事種別, 構造, 階数, 建築面積(m^2), 延べ面積(m^2). Row 1: 1, サービス棟, 改修, RC造, 1, 1, 408.67

II. 建築改修工事仕様

1. 共通仕様

- (1) 図面及び特記仕様書に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部制定「公共建築改修工事標準仕様書(建築工事情) 令和4年版」(以下、「改修標準仕様書」という。)による。
(2) 請負者は、建築基準法に基づく完了検査(中間検査含む)の検査には、特定行政庁(建築主事等)が求める検査に必要な資料等(報告書等)を用意する。
(3) 電気及び機械設備工事を本工事に含む場合、電気及び機械設備工事はそれぞれの工事仕様書を適用する。

2. 特記仕様

- (1) 項目は番号に○印のついたものを適用する。
(2) 特記事項は○印のついたものを適用する。○印のつかない場合は、※印のついたものを適用する。○印と※印のついた場合は共に適用する。
(3) 項目に記載【 】の内表示番号は、改修標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。【 】の内表示番号は、標準仕様書の当該項目、当該図又は当該表を示す。
(4) 図印は、「国等による環境物品等の調達に関する法律(以下「グリーン購入法」という。)」の特定調達品目を示す。判断の基準は「環境物品等の調達の推進に関する基本方針(令和4年2月5日閣議決定)」(環境省のホームページがダウンロード可能)による。
(5) 関係法令(条例を含む)の改正等により、工事内容が法令等に抵触する恐れがあることを認識した場合には、その対応について、監督職員と協議を行うものとする。
(6) 材料及び製造所等の記載は順不同である。

Main specification table with columns: 章, 項目, 特記事項. Includes sections for 1. 一般共通事項, 2. 官庁その他への手続, 3. 電気保安技術者, 4. 工事安全計画書, 5. 発生材の処理, 6. 環境への配慮.

7. 材料の品質等 [1. 4. 2]

- 3) ホルムアルデヒド放散量の区分において、第三種とは次の①又は②に該当する材料を指す。
① 建築基準法施行令第20条の7第1項に定める第三種ホルムアルデヒド発散建築材料
② 建築基準法施行令第20条の7第3項の規定により国土交通大臣の認定を受けた材料
国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律(平成12年法律第100号)に基づく環境物品等の調達の推進に関する基本方針における公共工事の配慮事項(資材(材料及び機材を含む)の梱包及び容器は、可能な限り簡易であって、再生利用の容易さ及び廃棄時の負担軽減に配慮されていること。)に留意する

- 材料・機材等の品質及び性能
1) 本工事に使用する材料は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能有するものとする。
2) 備考欄に商品名が記載された材料は、当該商品又は同等品を使用するものとし、同等品を使用する場合は監督職員の承諾を受ける。
3) 標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法については、材料製造所の指定する工法とする。
4) 本工事に使用する材料のうち、5) に指定する材料の製造業者等は、次の①～⑥の事項を満たすものとし、その証明となる資料(外部機関が発行する証明書の写し)を監督職員に提出して承諾を受けるものとする。ただし、あらかじめ監督職員の承諾を受けた場合はこの限りではない。
① 品質及び性能に関する試験データが整備されている。
② 生産施設及び品質の管理が適切に行われている。
③ 安定的な供給が可能である。
④ 法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得している。
⑤ 製造又は施工の実績があり、その信頼性がある。
⑥ 販売、保守等の営業体制が整えられている。
5) 製造業者等に関する資料の提出を定める材料

Table with columns: 床型用鋼製デッキプレート, 現場発泡断熱材, 鉄骨柱下無収縮モルタル, フリーアクセスフロア, 無収縮グラウト材, 可動間仕切り, 乾式保護材, 移動間仕切り, 既設合モルタル, トイレブース, ルーフドレン, 煙突用成形ライニング材, 吸気調整材, 天井点検口, 錠前類, 床点検口, クローザ類, グレーチング, 自動扉機構, 屋上緑化システム, 自閉式上吊り引引機構, トップライト, 重量シャッター, ポリマーセメントモルタル, 軽量シャッター, 既設合目地材, オーバーヘッドドア, 錆鉄敷ふた, 防水剤

8. 石綿含有建材の調査 [1. 5. 1]

- ※石綿含有建材の事前調査
工事着手に先立ち、あらかじめ関係法令に基づき、石綿含有建材の事前調査を行う
貸与資料( S52年度 鳥取県積善学園移転改築工事設計図 )
・分析による石綿含有建材の調査
分析対象
アクリルライト、アモサイト、アンソソライト、クリソタイト、クロソライト、トリモライト
分析方法
材料名 分析方法(定性) 分析方法(定量)
JIS A 1481-1又はJIS A 1481-2 JIS A 1481-3又はJIS A 1481-4
- 箇所 - 箇所
- 箇所 - 箇所
- 箇所 - 箇所
材料が仕上建材の場合は、層ごとの分析を行うこと
サンプル数 1箇所あたり3サンプル
採取箇所 ・ 図示

9. 施工数量調査 [1. 6. 2]

- 調査範囲 ※外壁(庇、笠木共) ・ 屋根 ・ 図示
調査方法 ※メソハンマーによる打診及び目視 ・ 図示
外壁調査は、外壁改修フロアに対応する外壁面のひび割れ、浮き、欠損部、内部まで貫通したひび割れ及び雨漏りの有無についての位置及び数量(幅、長さ、面積)の調査を行う
屋根調査は、防水面のひび割れ、浮き、欠損部、目地欠損部及び雨漏りの有無についての位置及び数量(幅、長さ、面積)の調査を行う。
また、その報告書は、調査結果を立面図等に記載し集計表を添えて監督職員に2部提出する(必要に応じて写真等を添付する。)

10. 調査のための破壊部分の補修 [1. 6. 3]

- 補修方法 ※ 図示
下表により適用する技能士は、適用する工事中、1名以上の者が自ら作業するとともに、他の技能者に対して、施工品質の向上を図るための作業指導を行う(技能士：職業能力開発促進法による一級技能士又は準一級級の資格を有する者)
(技能士はその者が技能士であることがわかる名札(下図参考)を常着用する)
また、その技能士はその者が技能士であることがわかる名札(下図参考)を常着用する

Table with columns: 工事種目, 技能検定職種, 技能検定作業. Includes sections for 仮設工事, 防水改修工事, 外壁改修工事, 建具改修工事, 内装改修工事, 撤去部分, 適用区分.

12. 化学物質の濃度測定 [1. 7. 9]

- 1) 測定対象室のホルムアルデヒド、ステレン、トルエン、キシレン、エチルベンゼンの室内濃度を測定し、厚生労働省が定める指針値以下であることを確認し、監督職員に報告する。
・パラジクロロベンゼンを追加して分析を行う
測定対象室( )
測定対象室のすべての窓及び扉(造り付け家具、押し入れ等の収納部分の扉を含む)を開放し、30分間換気。
測定対象室のすべての窓及び扉(造り付け家具、押し入れ等の収納部分の扉を含む)を開放し、30分間換気する。
②5時間閉鎖
①の後、測定対象室すべての窓及び扉を5時間閉鎖する。ただし、造り付け家具、押し入れ等の収納部分の扉は開放したままとする。
③測定
イ ②の状態のまま測定する。
ロ 測定時間は、原則として2.4時間とする。ただし、工程等の都合により、2.4時間測定が行えない場合は、8時間測定とする。なお、8時間測定の場合は、午後2時～3時が測定時間帯の中央となるよう、10時30分～18時30分までの時間帯で測定する。
ハ 測定回数は1回とし、複数回の測定は不要とする。
④分析
測定対象化学物質を採取したパッシブ型採取機器を分析機関に送付し、濃度を分析する。
⑤その他
監督職員から測定方法に関する注意事項等の指示を受ける。
下記のものを経験職員に提出する。

13. 完成写真

Table with columns: 区分, 分類・規格, 撮影箇所, 部数, 備考. Includes rows for 工事記録写真, 完成写真, パネル.

14. 完成時の提出図書 [1. 9. 1, 2]

- 下記のものを監督職員に提出する
※ 原図A 1版又はA 2版(設計図の第2原図訂正不可) 0部
※ CADデータ 1式
※ 原図の大型コピー(白紙)の2つ折製本 2部
※ 縮小版2つ折製本(A4版) 2部
・ 複写 縮小版A3パラ版 部
完成図の種類及び内容(改修前後の状態が分かるように整備する)
・ 案内図・配置図 : 配置図には外構整備、屋外給排水系統含む
・ 改修概要図 : 改修概要、部位等を表示する
・ 平面図 : 室名、耐震壁(防火壁)、避難施設等を表示する
・ 立面図 : 外壁仕上、補修範囲等を表示する
・ 断面図 : 階高、天井高等を表示する
・ 仕上表 : 屋外、屋内(各階)の仕上表を表示する
・ 構造図 : 杭、構造躯体等を表示する
○ その他 (設計図に備う)
・ 原図ケース・製本図面の背表紙に「施設コード・部局名称」ラベルを貼付ける

15. 設備工事との取り合い

Table with columns: 設備機器の位置、取り合い等が検討できる施工図を提出して、監督職員の承諾を受ける。 Includes rows for 設備工事との取り合い, 天井点検口, 機器類のコンクリート基礎, 屋内・屋外設置, 屋上設備.

16. 撤去部分

- コンクリート、モルタル等の撤去部分の境目は、原則としてダイヤモンドカッター切りとする。
ダイヤモンドカッター切り深さ(※30mm程度)

17. 適用区分

- 建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。
基準風速 V0 = m/s
地表面粗度区分 ・ I ・ II ・ III ・ IV
積雪区分 平成12年5月31日建設省告示第1455号 別表( )

18. 保安に関する資料 [1. 9. 3]

- 下記のものA4ファイルに製本して監督職員に提出する。
・ 主な主要資材、機器等のメーカー及び施工者一覧表
・ 機器性能試験成績書及び取扱説明書
・ 保証書
○ 官公署届出書類(保守に必要とするもの)
・ 建築物の保守に関する説明書、指導案内書
19. 火災保険等
工事目的物及び工事材料等工事施工中の事故に伴う損害を補てんするため火災保険等に加入する。(保険の加入期間は、工事完成日より遡り(概ね工期+21日)とする。)

20. 環境配慮

- 鳥取県公共事業環境配慮指針 ※ 対象工事 ・ 非対象工事

21. 建設リサイクル法

- ※ 対象工事 ・ 非対象工事

22. 鳥取県福祉のまちづくり条例

- ※ 対象工事 ・ 非対象工事

23. 景観形成条例

- ※ 対象工事 ・ 非対象工事

24. 建築物省エネ法

- ※ 対象工事 ・ 非対象工事

2. 仮設工事

- 1 騒音・粉じん等の対策 [2. 1. 3]
騒音・粉じん等の対策 ・ 防音パネル ・ 防音シート
防音パネル、防音シートを取り付ける足場の設置範囲
※ 工事に必要な範囲
2 足場その他 [2. 2. 1] [2. 2. 1]
「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙1「手すり先行工法による足場の積立て等に関する基準」における2の(2)手すり設置方式又は(3)手すり先行専用方式により行う。
外部足場 ・ 設置する(範囲 ※工事に必要な範囲) ・ 設置しない
防護シート ・ 設置する(範囲 ※工事に必要な範囲) ・ 設置しない
内部足場 ○設置する(※脚立・足場板等) ・ 設置しない
材料、撤去材等の運搬方法 ・ A種 ○B種 ・ C種 ・ D種 ・ E種
C種: 利用可能なエレベーター( )
D種: 利用可能な階段( )
養生方法等
○既存部分の養生方法 ※ビニルシート、合板等による
・ 既存家具、既存設備等の養生方法 ※ビニルシート等
・ 既存フラインド、カーテン等の養生方法 ※ビニルシート等(取外し再取り付けを行う)
・ 養生場所 ※構内既存施設内
・ 固定された家具等(備品、机、ロッカー等)の移動 ※行う(図示)
既存部分に汚染又は損傷を与えるおそれがある場合は養生を行う。また、万一損傷を与えた場合は、受注者の責任において速やかに修復等の処置を行う。

3. 既存部分の養生 [2. 3. 1]

- 仮設間仕切り及び仮設扉の設置箇所 ※図示
仮設間仕切りの種別と材質等
・ A種 ※ B種 ・ C種 ・ 図示
A、B種の仕上げ材 ※絨ろウボード(GB-R 厚さ9.5mm) ・ 合板(普通合板 厚さ9mm)
A、B種の片面への塗装等 ・ 行う ※行わない
A種のガラスウール等の充填材
※ 行う(JIS A 6301グラスウール吸音材2号32K 厚50mm)
・ 行わない
仮設扉の種別 ※木製(合板張り程度)

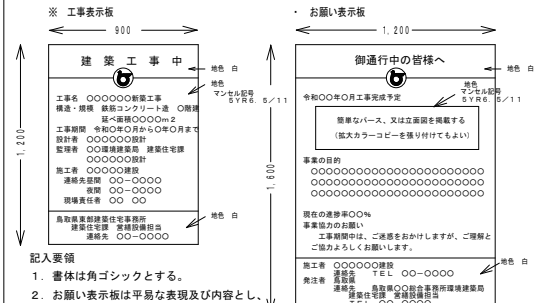
4. 仮設間仕切り [2. 3. 2]

- ※ 設ける m程度 ・ 設けない
現場に設置する備品等は、現場設備等の施工条件明示事項による。
・ 既存建物内の一部を使用する(場所)
・ 構内に新設する 規模( m)

5. 監督職員事務所 [2. 4. 1]

- ※ 設ける m程度 ・ 設けない
現場に設置する備品等は、現場設備等の施工条件明示事項による。
・ 既存建物内の一部を使用する(場所)
・ 構内に新設する 規模( m)

6. 表示板



7. 工事用水

- 構内既存の施設 ※ 利用できない ・ 利用できる(※ 有償 ・ 無償)

8. 工事用電力

- 構内既存の施設 ※ 利用できない ・ 利用できる(※ 有償 ・ 無償)

9. 工事用仮設物

- 構内既存の施設 ○ 利用できない ・ 利用できる

10. 工事現場のイメージアップ

- 降雨時に対する養生方法 [3. 1. 3]
※改修標準仕様書3.1.3(5)(7)～(9)による。
・ 行わない
既存防水層の撤去 ・ 行う(範囲 ・ 図示) ・ 行わない
露出防水層表面の仕上げ塗装の除去 ・ 行う(・ M4S ・ M4S1 ・ M4C ・ M4D1 ・ L4X)
・ 行わない
改修用ドレン ・ 設ける(・ POAS ・ POAS1 ・ POD ・ ROD1 ・ POS ・ POS124R0962)
・ 設けない

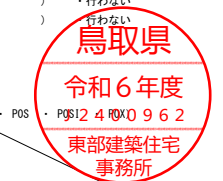






Table with 4 main rows (4, 5, 6, 7) and multiple columns for material specifications, including items like 製材, 造作用集成材, 造作用単板積層材, and 床張り用合板. Each row contains detailed technical data and references to standards like JAS 1083-5.

Table with 10 main rows (8-17) and multiple columns for material specifications, including items like パーティクルボード, 防塵・防蟻処理, 軽重鉄骨天井下地, 軽重鉄骨壁下地, ビニル床シート, ビニル床タイル, and ゴム床タイル. Each row contains detailed technical data and references to standards like JIS L 3204.

Table with 10 main rows (16-25) and multiple columns for material specifications, including items like カーペット敷き, 合成樹脂塗床, 防じん用塗床, フローリング張り, 畳敷き, and セッコウボード. Each row contains detailed technical data and references to standards like JIS K 5970.

Table with 3 main rows (22-24) and multiple columns for material specifications, including items like 壁紙張り, モルタル塗り, and タイル張り. Each row contains detailed technical data and references to standards like JIS A 1404.



Table with 2 columns: Construction Name (埋蔵文化財センター 積善分館内部改修工事 (第二期) (建築・電気設備)) and Drawing Name (改修工事特記仕様書 (4)).

Table with 2 columns: Construction Name (埋蔵文化財センター 積善分館内部改修工事 (第二期) (建築・電気設備)) and Drawing Name (改修工事特記仕様書 (4)).

Table with 2 columns: Construction Name (埋蔵文化財センター 積善分館内部改修工事 (第二期) (建築・電気設備)) and Drawing Name (改修工事特記仕様書 (4)).

Table with 2 columns: Construction Name (埋蔵文化財センター 積善分館内部改修工事 (第二期) (建築・電気設備)) and Drawing Name (改修工事特記仕様書 (4)).

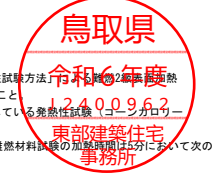
Table with 2 columns: Construction Name (埋蔵文化財センター 積善分館内部改修工事 (第二期) (建築・電気設備)) and Drawing Name (改修工事特記仕様書 (4)).

Table with 2 columns: Item No. and Description. Items include 5. 溶融亜鉛めっき高力ボルト, 6. 普通ボルト, 7. アンカーボルト, 8. 溶接材料, 9. スタッド, 10. 製作精度, 11. 溶接作業を行う技術資格者の技量付加試験, 12. 仮組, 13. 高力ボルト接合, 14. 溶接接合, 15. 入熱、バス開温度の溶接条件, 16. 溶接部の試験, 17. 耐火被覆, 18. 建方精度.

Table with 2 columns: Item No. and Description. Items include 19. アンカーボルトの保持及び埋込み工法, 20. 溶融亜鉛めっき工法, 8-1-4. あと施工アンカー工事, 8-1-5. 耐震改修工事(グラウト工事), 8-1-6. 耐震改修工事(連続繊維補強工事).

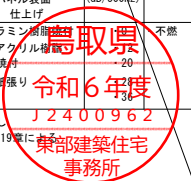
Table with 2 columns: Item No. and Description. Items include 8-1-7. 耐震改修工事(耐震スリット新設工事), 8-1-8. 耐震改修工事(土工事及び地業工事), 9. 環境配慮改修工事.

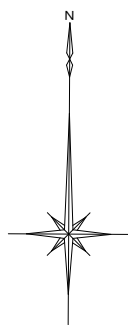
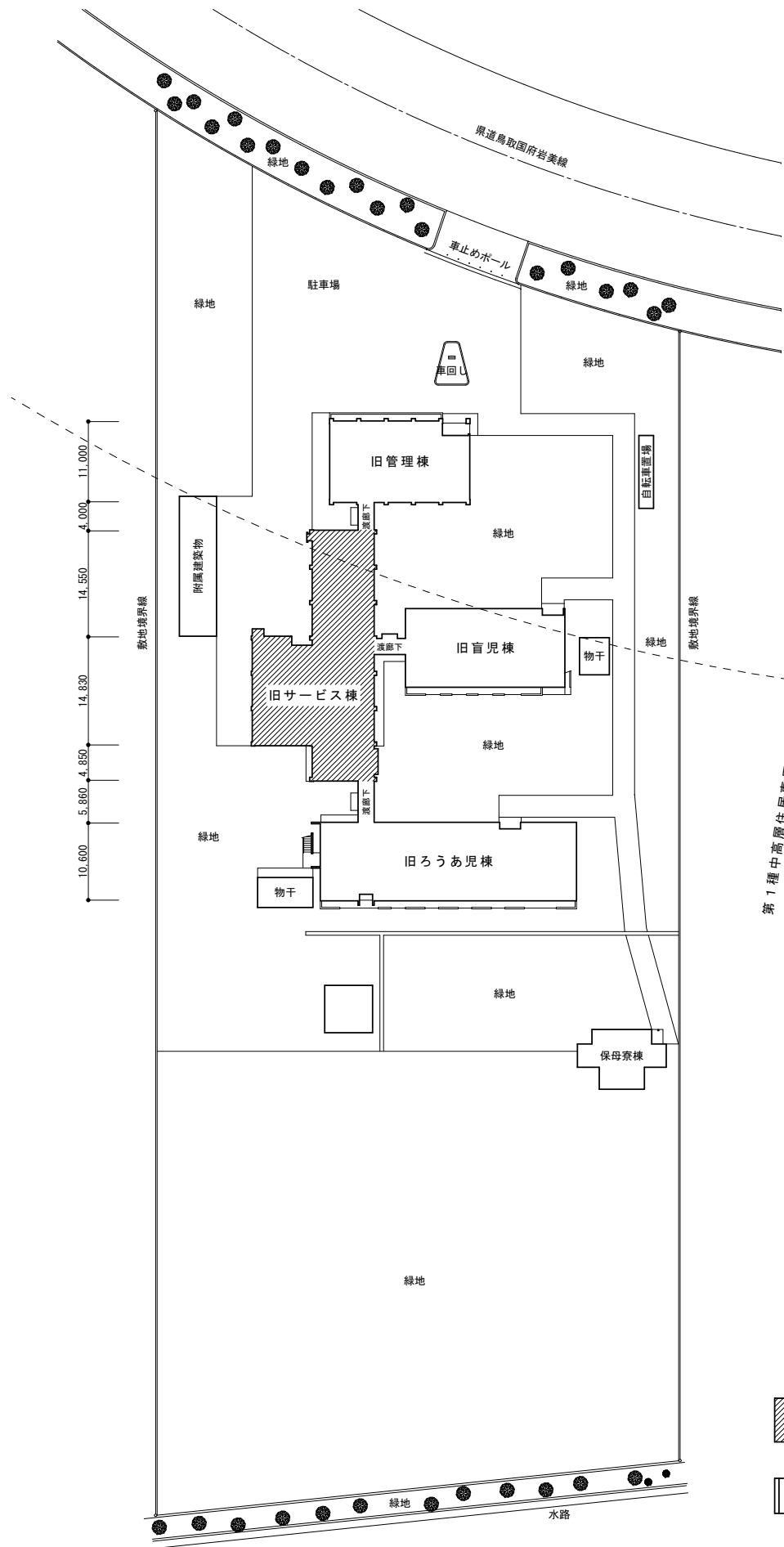
Table with 2 columns: Item No. and Description. Items include 外断熱改修工事, 断熱材, 断熱材(表), 断熱材(裏), フェノールフォーム断熱材又は保温材, 断熱材打込み工法, 断熱材の種類, 断熱材の厚さ, 断熱材の施工箇所, 断熱材の施工時期, 断熱材の施工方法, 断熱材の施工品質.



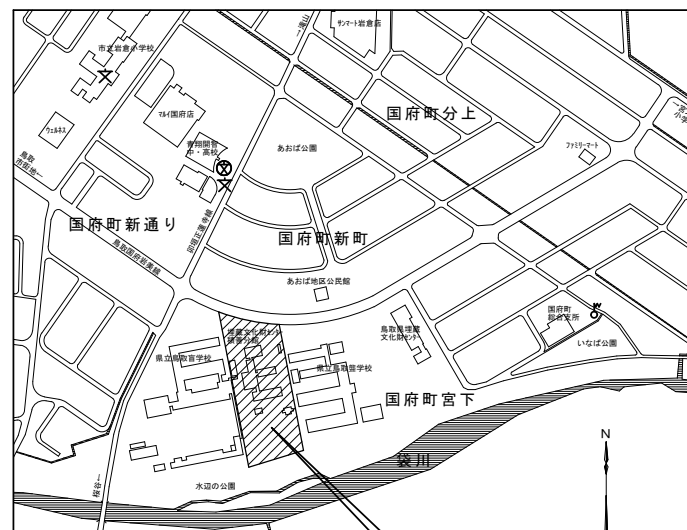


Architectural specification form for renovation work. Includes sections for: 1. Construction Name (埋蔵文化財センター 積善分館内部改修工事), 2. Drawing Name (改修工事特記仕様書), 3. Scale (SCALE), 4. Date (DATE), 5. Drawing No (DRAWING NO), 6. Drawing By (DRAWING BY), 7. Checked By (CHECKED BY). The main body contains detailed technical specifications for various materials and components, including: 8. 耐震性能 (Seismic Performance), 9. 点検口 (Access Hatches), 10. 天井見切り縁等 (Ceiling Edge Details), 11. 鉄筋 (Reinforcement), 12. 溶接金網 (Welded Mesh), 13. 鉄筋の継手及び定着 (Reinforcement Joints and Anchorage), 14. コンクリートの気乾単位容積重量 (Concrete Unit Weight), 15. セメント (Cement), 16. 型枠 (Formwork), 17. 無筋コンクリート (Non-reinforced Concrete), 18. 床コンクリート (Floor Concrete), 19. あと施工アンカー (Cast-in-place Anchors), 20. 可動間仕切 (Movable Partitions). Each section includes specific material requirements, dimensions, and testing procedures.

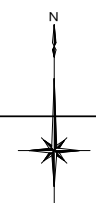




第1種中高層住居専用地域  
第1種住居地域



付近見取図



概略工事工程表 ※概略工事工程表は参考であり、請負業者の施工計画を拘束するものではない

工 事	工 期	(1ヶ月)		(2ヶ月)		(3ヶ月)		(4ヶ月)	
		10	20	10	20	10	20	10	20
建築工事	準備、検査等	準備、調査等				検査、引渡し			
	内部改修工事			とりこわし 内部改修					
電気設備工事				とりこわし 電灯、空調電源、火報設備改修					
機械設備工事				とりこわし 冷暖房設備改修					

改修建物を示す

配置図 1/600

CONSTRUCTION NAME 埋蔵文化財センター積善分館内部改修工事（第二期）（建築・電気設備）

DRAWING NAME 付近見取図・配置図・概略工事工程表

コダニ建築環境設計(有)  
一級建築士 河野雄一郎 大臣登録 第 376081 号

SCALE

1/600

PROJECT NO

DATE

R6/11

DRAWING NO

A-07

DRAWING BY



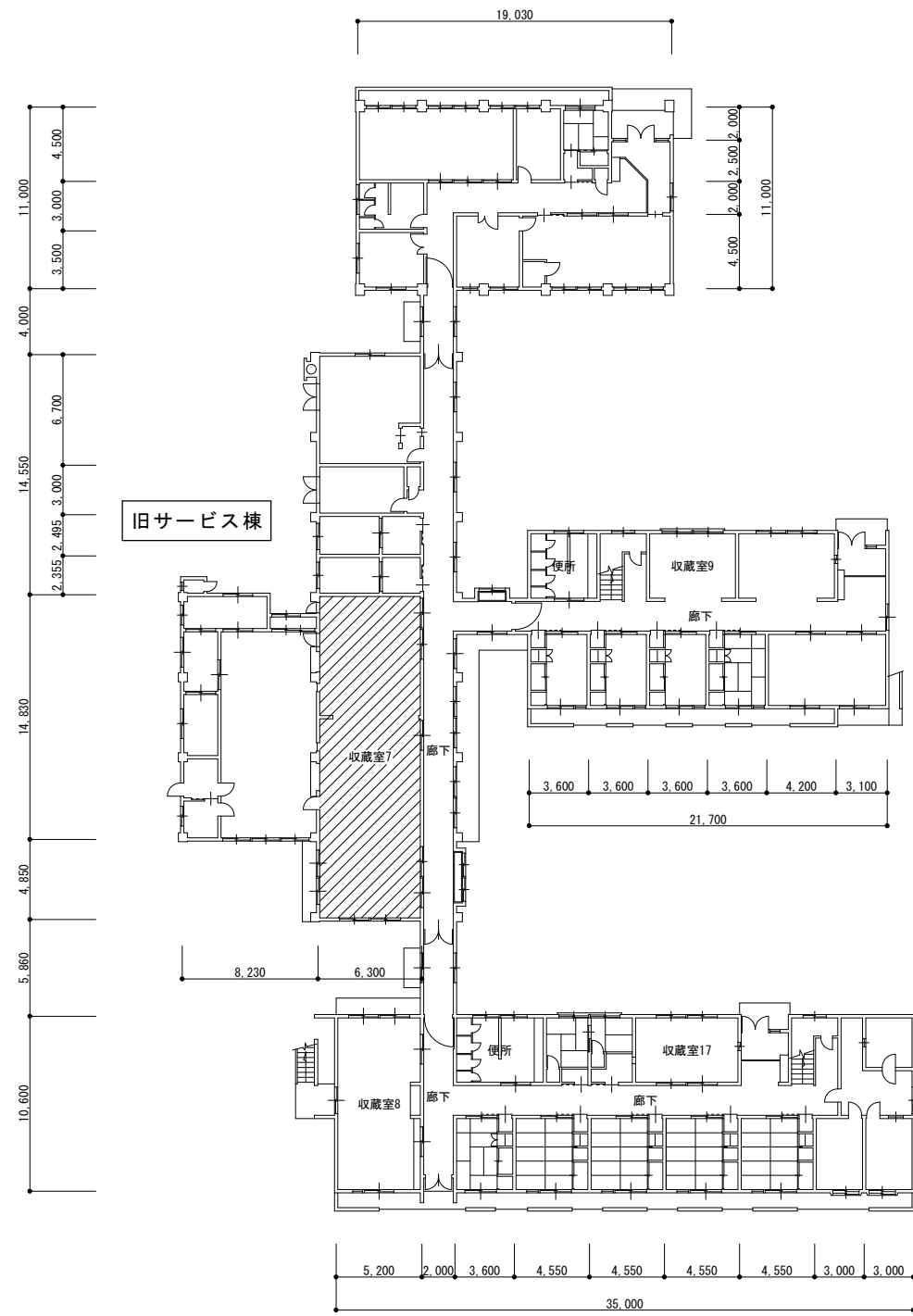
CHECKED BY



鳥取県  
令和6年度  
J2400962  
東部建築住宅  
事務所







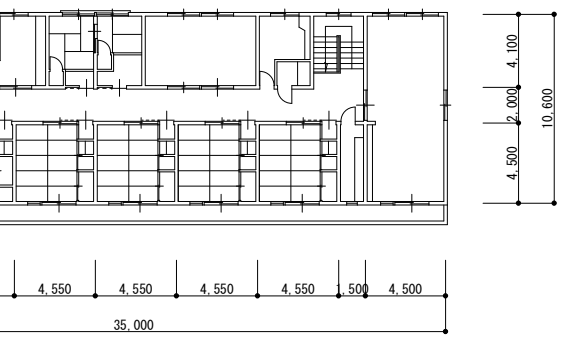
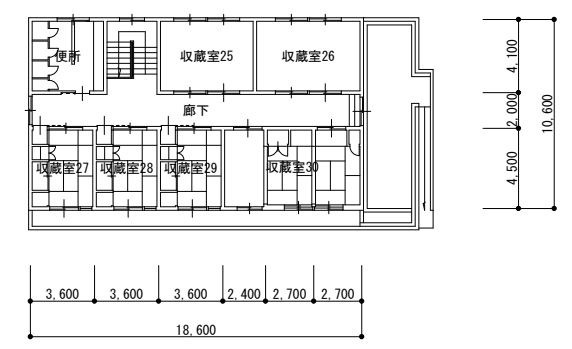
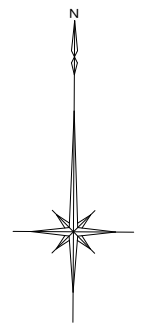
1階平面図 1/300

旧管理棟

旧盲児棟

旧ろうあ児棟

: 改修箇所を示す



2階平面図 1/300

CONSTRUCTION NAME	埋蔵文化財センター積善分館内部改修工事（第二期）（建築・電気設備）
DRAWING NAME	全体平面図

**コダニ建築環境設計(有)**  
 一級建築士 河野雄一郎 大臣登録 第 376081 号

SCALE	DATE
1/300	R6/11
PROJECT NO	DRAWING NO
	A-09

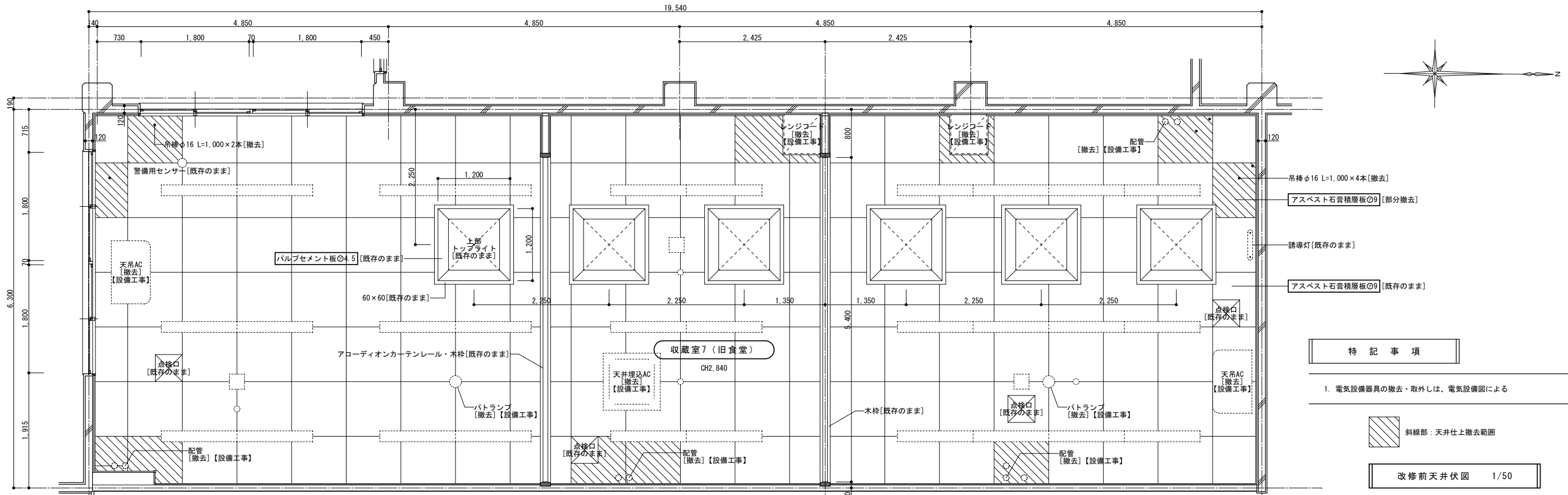
DRAWING BY

CHECKED BY







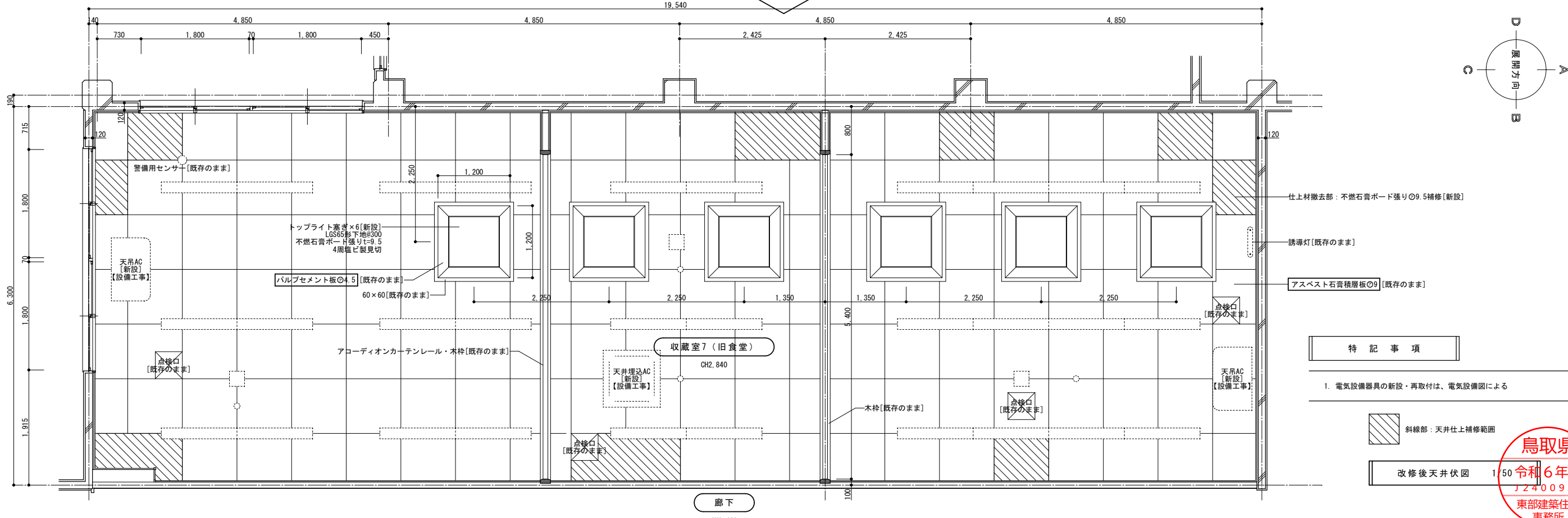


特記事項

1. 電気設備器具の撤去・取外しは、電気設備図による

斜線部：天井仕上撤去範囲

改修前天井伏図 1/50



特記事項

1. 電気設備器具の新設・再取付は、電気設備図による

斜線部：天井仕上補修範囲

改修後天井伏図 1/50

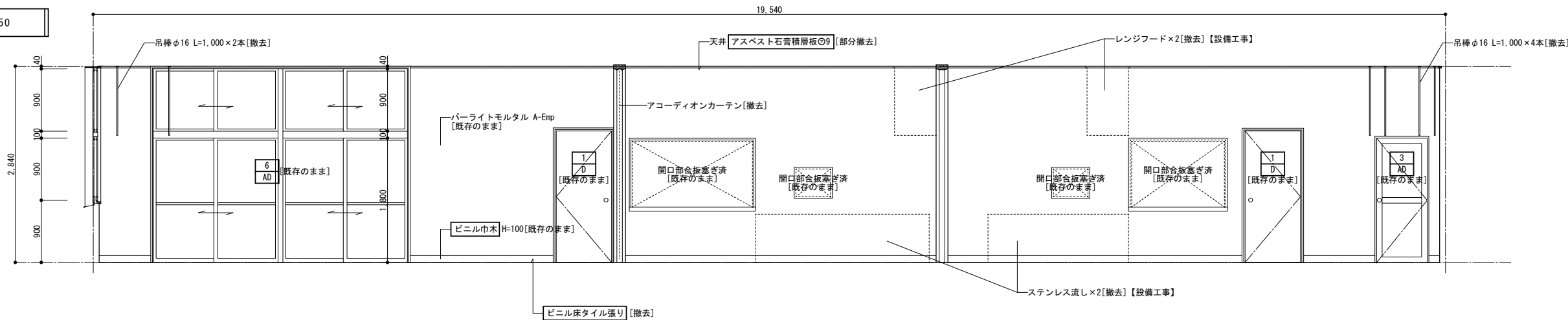
CONSTRUCTION NAME 埋蔵文化財センター積善分館内部改修工事（第二期）（建築・電気設備）  
DRAWING NAME 旧サービス棟1階 収蔵室7 改修前・改修後 天井伏図

コダニ建築環境設計(有)  
一級建築士 河野雄一郎 大臣登録 第 376081 号

SCALE	DATE	DRAWING BY	CHECKED BY
1/50	R6/11	中本	小谷
PROJECT NO	DRAWING NO		
	A-11		

鳥取県  
令和6年度  
J2400962  
東部建築住宅  
事務所



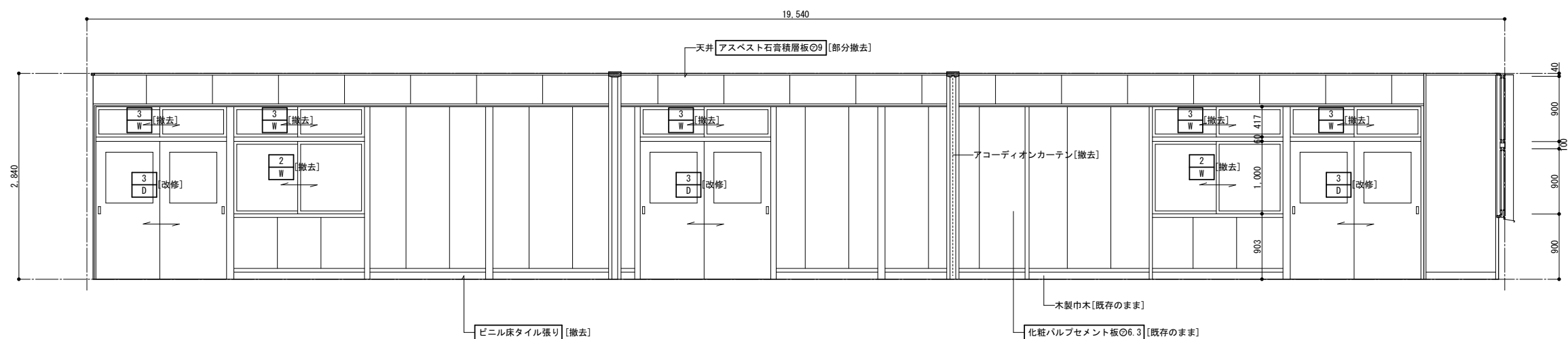


D面



C面

A面



B面

CONSTRUCTION NAME	埋蔵文化財センター積善分館内部改修工事（第二期）（建築・電気設備）
DRAWING NAME	旧サービス棟1階 収蔵室7 改修前展開図

**コダニ建築環境設計(有)**  
 一級建築士 河野雄一郎 大臣登録 第 376081 号

SCALE	DATE	DRAWING BY	CHECKED BY
1/50	R6/11	中本	小谷
PROJECT NO	DRAWING NO		
	A-12		

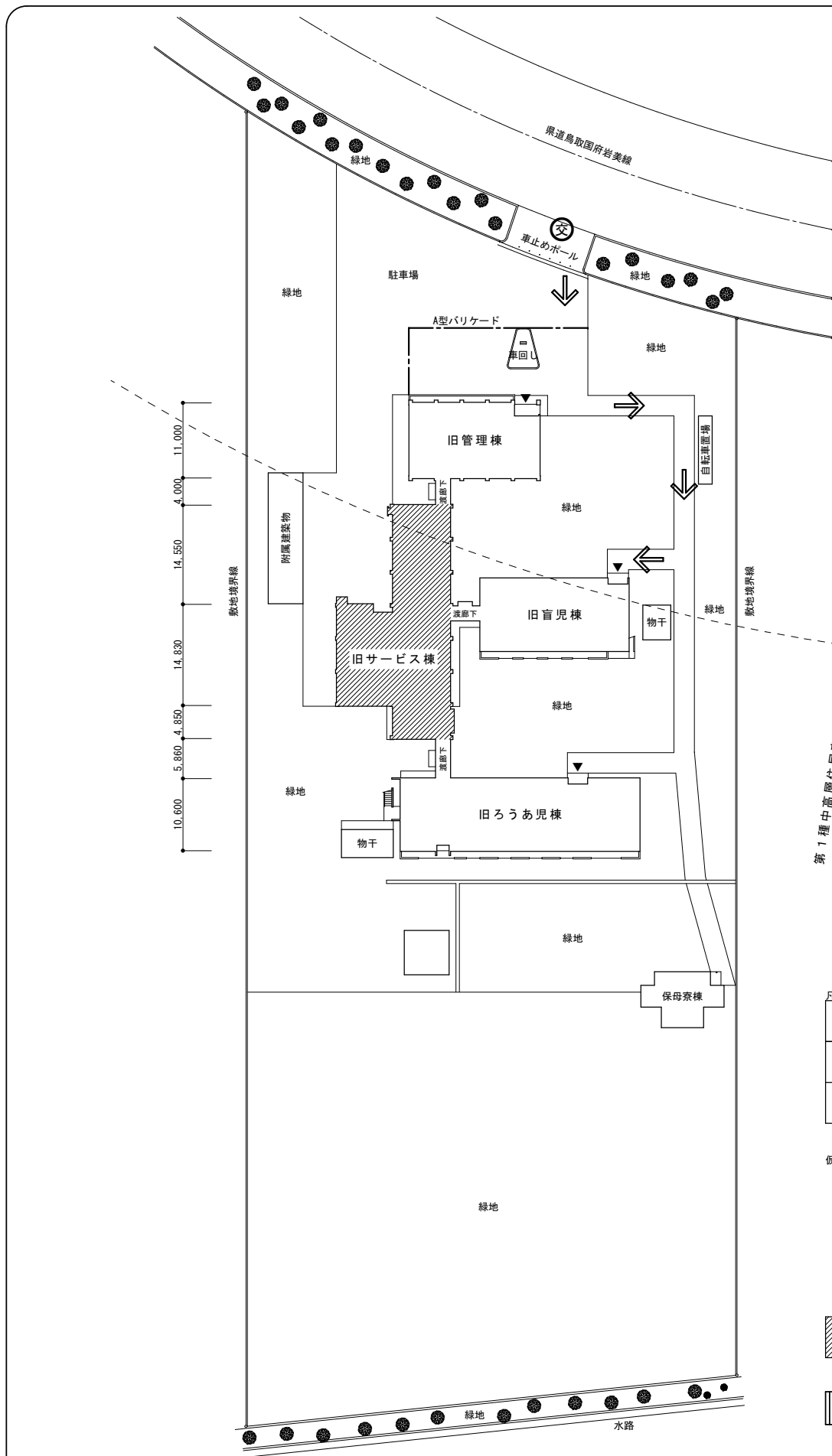






記号・種類・数量	3 AD	片開戸	[既存のまま]	1	6 AD	2段2連引違戸	[既存のまま]	1	3 AW	2段2連引違窓	[既存のまま]	1	1 D	片開フラッシュ戸	[既存のまま]	2	3 D	引違フラッシュ戸	[改修]	3
形状・寸法																				
材料・見込	枠アルミ、型板網入φ6.8				枠アルミ、透明φ3、網入φ6.8				枠アルミ、透明φ3				枠SOP、シナ合板φ3 SOP				枠SOP、シナ合板SOP			
金物	丁番、ロック、DC				戸車、引手、クレセント、二重水切				戸車、引手、クレセント、二重水切				丁番、ロック、DC、施錠				戸車、引手、ステンレス敷居			
記号・種類・数量	2 W				3 W															
形状・寸法																				
材料・見込	枠杉SOP、透明φ3				枠杉OP、透明φ3															
金物	戸車、引手、レール				戸車、引手、レール															
<p><b>共通事項／①FLは、改修前のFLを示す／②建具記号の四角は旧サービス棟、六角は旧ろうあ児棟、丸は旧盲児棟を示す</b></p>																				
CONSTRUCTION NAME					埋蔵文化財センター積善館内部改修工事（第二期）（建築・電気設備）					DRAWING NAME					建具表 旧サービス棟					
										<p>コダニ建築環境設計(有)</p> <p>一級建築士 河野雄一郎 大臣登録 第 376081 号</p>										
SCALE					1/50					DATE					R6/11					
PROJECT NO										DRAWING NO					A-14					
DRAWING BY										CHECKED BY										

鳥取県  
令和6年度  
J2400962  
東部建築住宅  
事務所



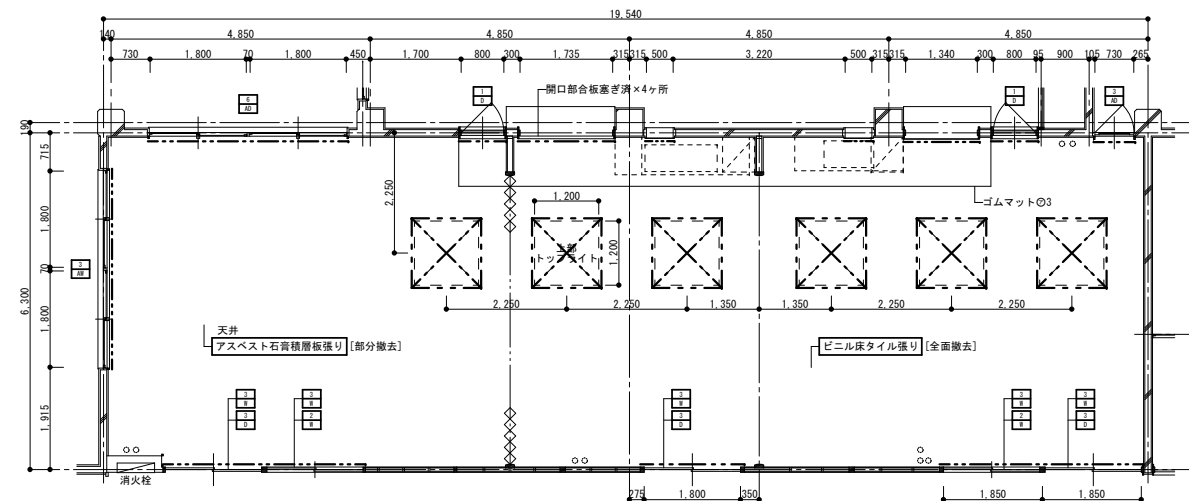
第1種中高層住居専用地域  
第1種住居地域

←	工事車輛進入経路
---	A型バリケード
⊙	交通誘導員

[特記事項]  
仮設計画図は参考であり、請負業者の仮設計画を拘束するものではない

改修建物を示す

配置図 1/600



倉下 7 1/100

---	アスベスト飛散防止養生 (開口部目張り)
-----	----------------------

CONSTRUCTION NAME 埋蔵文化財センター積善分館内部改修工事 (第二期) (建築・電気設備)

DRAWING NAME 仮設計画図 (参考図)

コダニ建築環境設計(有)  
一級建築士 河野雄一郎 大臣登録 第 376081 号

SCALE

1/100 1/600

PROJECT NO

DATE

R6/11

DRAWING NO

A-15

DRAWING BY

河野

CHECKED BY

小谷

鳥取県  
令和6年度  
J2400962  
東部建築住宅  
事務所

# 電気設備工事特記仕様書

## I. 工事概要

1 工事場所 鳥取市国府町宮下

## 2 建物概要

番号	建物名称	構造	階数	建築基準法による延べ面積(㎡)	消防法施行令別表第一の区分	備考
1	旧サービス棟	RC造	1	408.67	( ) 項	改修
2					( ) 項	
3					( ) 項	
4					( ) 項	
5					( ) 項	

## 3 工事種目 (●印の付いたものが対象工事種目)

工事種目	番号	1	2	3	4	5	屋外	備考
● 電灯設備								
● 動力設備	○							
● 電熱設備								
● 雷保護設備								
● 受変電設備								
● 電力貯蔵設備								
● 発電設備								
● 構内情報通信網設備								
● 構内交換設備								
● 情報表示設備								
● 映像・音響設備	通							
● 拡声設備	信							
● 誘導支援設備	報							
● テレビ共同受信設備	設							
● 監視カメラ設備	備							
● 駐車場管制設備								
● 防犯・入退室管理設備								
● 火災報知設備								
● 中央監視制御設備								
● 医療関係設備								
● 構内配電線路								
● 構内通信線路								
● テレビ電波障害防除設備								
● 機械設備工事								
● 建築工事								

## 4 設備概要 (本工事における工事種目ごとの概要を示すもので、仕様を規定するものではない。)

●の付いたものを適用する。

項目	特記事項
電灯設備	● 電気方式 ● 非常用照明器具 ● 誘導灯
動力設備	● 電気方式
雷保護設備	● 受雷部 ● 避雷導線 ● 接地極
受変電設備	● 電気方式 ● 契約電力 ● 設備方式 ● 機器類

項目	特記事項
電力貯蔵設備	● 直流電源装置 ● 交流無停電電源装置(UPS)
発電設備	● 自家発電装置 ● 太陽光発電装置 ● 風力発電装置
通信情報設備	● 構内情報通信網設備 ● 構内交換設備 ● 情報表示設備 ● 映像・音響設備 ● 拡声設備 ● 誘導支援設備 ● テレビ共同受信設備 ● 監視カメラ設備 ● 駐車場管制設備 ● 防犯・入退室管理設備 ● 自動火災報知設備 ● 自動閉鎖設備 ● 非常警報設備 ● ガス漏れ火災警報設備
中央監視設備	● 形式 ● 監視制御対象設備 ● 伝送方式
構内配電線路	● 電気方式 ● 施工方法 ● 外灯点滅方式
構内通信線路	● 用途 ● 施工方法
テレビ電波障害防除	● 対策方法 ● 責任分界点

## II. 特記仕様

### 1 一般事項

- 現場説明書、質問回答書、特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の標準仕様書のうち●印の付いたものによる。
  - 公共建築工事標準仕様書(電気設備工事編)(令和4年版)(以下、「標準仕様書」という。)
  - 公共建築改修工事標準仕様書(電気設備工事編)(令和4年版)(以下、「改修標準仕様書」という。)
  - 公共建築設備工事標準仕様書(電気設備工事編)(令和4年版)(以下、「標準図」という。)
- 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「電気設備工事監理指針(令和4年版)」(以下「監理指針」という。)を適用する。
- 機械設備工事及び建築工事を本工事を含む場合、機械設備工事及び建築工事はそれぞれの標準仕様書等及び監理指針を適用する。

### 2 特記事項

- 項目は番号に○印の付いたものを適用する。
- 特記事項のうち選択する事項は●の付いたものを適用する。
  - の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。●と◎の付いた場合は共に適用する。
- 一般共通事項のうち(1, 2, 4, 8, 9, 11, 12, 13, 14, 15, 35)項は◎ 建築 ● 機械設備 工事特記仕様書による。

項目	特記事項
1 官公署その他への手続	工事の施工に伴い必要な官公署その他への手続、検査並びにその費用は、請負者の負担とする。
2 電気保安技術者	工事現場における電気保安技術者は、鳥取県総務部営繕工事業用電気工作物保安規程第5条に定める工事担当技術者の職務を補佐し、当該工事の工事期間中自家用電気工作物の保安の業務を行うものとする。 なお、電気保安技術者の資格は標準仕様書第1編第1章第3節1.3.2によるものとし、一般用電気工作物に係る工事についても、自家用電気工作物の場合と同様の業務を行うものとする。
3 電気工事士	契約電力500kW以上の場合においても、第1種電気工事士により施工を行う。
4 工事安全計画書等	建設工事公衆災害防止対策要綱及び建築工事安全施工技術指針を参考に工事安全計画書を作成し監督職員に提出する。
◎ 発生材の分析及び処理	引渡しを要するもの ※ 無し ● 有り ( ) 引渡しを要するもの以外は、構外搬出適切処理とする。 特別管理産業廃棄物 ※ 無し ● 有り ◎本工事において調査を行う ( ● PCB使用機器 ● アスベスト含有設備資材材 ( ● 配線用遮断機 ● ) ) PCB使用機器は関係法令等に準って適切に処理する。 撤去予定機器の微量PCB分析 ※ 無し ● 有り

- ◎ 機材等
- ◎ 機材の品質・性能証明
- 8 施工図等
- 9 完成写真等
- ◎ 完成図等

- 11 他工事との取合い
- 12 工事用電力・水・その他
- 13 表示板
- 14 足場

本工事に使用する設備機材等は、設計図書に規定するもの又はこれらと同等以上の品質及び性能を有するものとする。また、製造者等が定められている機材については、Ⅲ. 機材によるほかこれらと同等以上のものとする。ただし、これらと同等以上のものとする場合は、設計図書に定める品質及び性能を有することの証明となる資料をあらかじめ監督職員に提出して承諾を受ける。  
なお、(一社)公共建築協会発行の「建築材料・設備機材等品質性能評価事業 設備機材等評価名簿」による場合は評価書の写しを監督職員に提出するものとする。  
使用する機材がⅢ. 機材による場合は、標準仕様書第1編第1章第4節1.4.2(2)の品質及び性能を有することの証明となる資料の提出を省略することができる。ただし、標準仕様書に規定される製作図、試験成績書等は除く。提出した施工図等の著作権に係わる当該建物に限る使用権は発注者に移譲するものとする。  
国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「工事写真撮影ガイドブック電気設備工事編 平成30年版」によるほか、監督職員の指示による。下記のものを出し出す。

区分	分類・規格	撮影箇所	部数	電子データの提出
工事写真	カラーサービス判	各工程毎	※ 1部 ● 部	◎ 要 ● 不要
完成写真	カラーサービス判	監督職員の指示による	※ 2部 ● 部	◎ 要 ● 不要

次の図書を工事の完成引渡し時に監督職員に提出する。

区分	名称	部数
※ 完成図原因	完成図 ● 原紙 ◎ CADデータ ◎ PDFデータ 施工図 ● 原紙 ◎ CADデータ ◎ PDFデータ	1部
※ 完成図 2つ折製本	◎ 完成図 ◎ 完成図(縮小版) ◎ 施工図	※ 2部 ● 部
※ 完成図書	◎ 完成図(縮小版) ※ A4版市販ファイル ◎ 主要機器図 ※ A4版黒表紙製本 ◎ 試験成績書	※ 2部 ● 部
※ 保守用説明書	※ 保守に関する指導案内書 ※ 機器取扱説明書 ※ 主要機器一覧表	※ 2部 ● 部
※ 保証書		1部
※ 官公署届出書類		1部

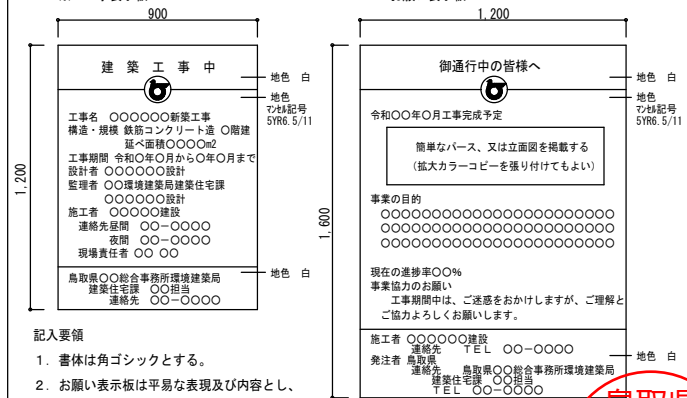
● 原因ケース・製本図面の裏表紙に「施設コード・部局名称」ラベルを貼り付ける。

他工事との取合い	電気設備	機械設備	建築
● コンクリート壁、床、梁貫通部	補強 ● ●	スリーブ・箱入 ※ ● ●	● ● ●
● 鉄骨造の開口及び補強	● ● ●	● ● ●	● ● ●
● 照明器具・幹線等の吊りボルト用インサート(くぎ処理共)	※ ● ● ●	● ● ●	● ● ●
● 軽量鉄骨壁のボックス取付用下地	※ ● ● ●	● ● ●	● ● ●
● 埋込分電盤・端子盤・プルボックスの仮枠及び埋込部分の補強	仮枠 ※ ● ● ●	補強 ● ● ●	● ● ●
● OAフロア・フリーアクセスフロアの切込み及び補強	● ● ●	● ● ●	● ● ●
● 埋込形機器取付用の天井、壁の下地材・仕上げ材	切り込み ※ ● ● ●	補強 ● ● ●	● ● ●
● 自動開閉装置を取付ける防火戸の切込み、補強及びドアクローザ、フロアヒンジ	● ● ●	● ● ●	● ● ●
● 電気室、自家発電機室などの基礎及びビット(蓋を含む)	● ● ●	● ● ●	● ● ●
● 機器付属の制御盤及び操作盤から機器までの配線	● ● ●	● ● ●	● ● ●
● 機器用コントロールスイッチ(空調機、給湯器等)の取付及び配線	● ● ●	● ● ●	● ● ●
● テレビアンテナ	アンカーボルト ※ ● ● ●	● ● ●	● ● ●
● 天井点検口	● ● ●	● ● ●	● ● ●
● 自立型制御盤の基礎	※ ● ● ●	● ● ●	● ● ●
● 機器類のコンクリート基礎	屋内・屋外設置 ※ ● ● ●	屋上設置 ● ● ●	● ● ●

本工事に必要な工事用電力、水及び諸手続きなどの費用はすべて受注者の負担とする。

設ける。(寸法等は下図による。建築工事、機械設備工事等と一緒に表示する)

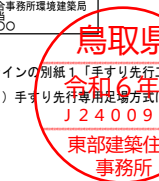
※ 工事表示板 ● お願い表示板



記入要領

- 書体は角ゴシックとする。
- お願い表示板は平表表現及び内容とし、監督職員が指示するものとする。

「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙1「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の(2)手すり置き置き方式又は(3)手すり先行専用足場方式又は(4)手すり先行専用足場方式より行う。





15 工事用仮設物  
16 土工事  
① 電線類  
⑩ 電線本数・管径等  
⑬ 屋外露出配管の仕上げ  
20 露出配管の塗装（付属品含む）  
21 波付硬質合成樹脂管（FEP）  
⑭ フラッシュプレートの材質  
⑮ カバープレートの表示  
24 ブロックの塗装  
25 耐震施工  
⑯ 接地極  
⑰ 屋上、屋側の支持金物等  
28 結露防止  
⑱ アスベスト含有建材の処理

構内につくることが ※ できる ● できない  
埋め戻し土 ※ 根切土の中の良質土 ● 山砂の類 ( ) ● 真砂土 ( )  
建設発生土の処理 ● 構外に搬出し適切に処理 ※ 構内敷きならし ● 構内の指示する場所に堆積  
本工事で環境配慮の観点から、原則としてEMケーブルを使用するものとする。  
EM電線類で規格等の定めのないものはハログゲン及び鉛を含まない材料で構成されたものとする。  
通信ケーブルでJCS規格にない対数のケーブルはJCS規格に準じたものとする。  
盤内配線はEM電線を使用する。ただし、製造者標準品と特記したものは除く。  
ハーネスジョイントボックス用OAタップのケーブルはハログゲン及び鉛を含まない材料とする。  
分電盤、制御盤、端子盤などの2次側以降の配線経路、電線太さ、電線本数、管径などは監督職員の承諾を受けて変更してもさしつかえない。  
屋外露出配管（厚鋼電線管）で塗装を行わない場合は、溶融亜鉛めっき仕上げ【めっき付着量 300g/m<sup>2</sup>以上】とする。  
塗装する部分 ● 屋上 ● 屋側 ● 屋外 ● 廊下 ● 機械室 ● 居室 ( ) ●  
波付硬質合成樹脂管（FEP）を使用する場合は不燃又は難燃性とする。  
① 金属製（ステンレス、新金属も含む） ● 樹脂製  
シール等を貼付し、用途を表示する。  
ステンレス製ブロックの塗装 ※ 無（素地仕上） ● 有（指定色仕上）  
設備機器の固定は、次に示す設計用地震力に耐える方法とする。ただし、重量1kN以下の一般機器について、製造者の指定する固定方法を採用する場合は、この限りではない。  
1) 機器の据付け及び取付け  
設計用水平地震力は、機器重量[kN]に、地域係数と次に示す設計用標準水平震度を乗じたものとする。  
設計用標準水平震度

設置場所	機器種別	● 特定の施設		● 一般の施設	
		重要機器	一般機器	重要機器	一般機器
上層階 屋上及び塔屋	機 器	2.0	1.5	1.0	1.0
	防振支持の機器		2.0	1.5	1.0
中間階	機 器	1.5	1.0	0.6	
	防振支持の機器		1.5	1.0	1.0
地下及び1階	機 器	1.0	1.0	0.6	
	防振支持の機器		0.6	0.4	0.4
水 槽 類	機 器	1.5	1.0	0.6	
	水 槽 類		1.0	0.6	

上層階の定義 2～6階建：最上層、7～9階建：上層2階、10～12階建：上層3階、13階以上：上層4階  
中間階の定義 地階、1階を除く各階で上層階に該当しないもの  
水槽類には燃料小出槽を含む  
重要機器 ( ● 配電盤 ● 非常用発電装置 ● 交換装置 ● 直流電源装置 ● UPS装置 ● 火災報知受信機 ● 中央監視制御装置 ● 通信総合盤 ● )  
2) 設計用鉛直地震力は設計用水平地震力の1/2とし、水平地震力と同時に働くものとする。  
3) 設備機器の耐震支持及びアンカーボルトの許容耐力と選定については、「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」（一財）日本建築センター）を参考にする。  
接地極の材料は次による。

接地の種類	記号	接地抵抗値	接 地 極
● 共同接地	EAED	10Ω以下	EB×3連-2組
● 共同接地	EAECED	10Ω以下	EB×3連-2組
● A種	EA	10Ω以下	EB×3連-2組
● B種	EB	Ω以下	EB×2連-2組
● C種	EC	10Ω以下	EB×3連-2組
① D種	ED	100Ω以下	EB×1
● 高圧避雷器	ELH	10Ω以下	EB×3連-2組
● 交換機用	E t	Ω以下	EB×3連-1組
● 通信用	E A t	10Ω以下	EB×3連-2組
● 通信用	E D t及びE D a	100Ω以下	EB×1
● 電話引込口の保安器用	E L t	100Ω以下	EB×1
● 測定用	E o	-	EB×1

(連結の場合、EBはD=14 L=1500 または W=40 L=1200とする)  
(ED, EDt, EDa, ELt, Eo の場合、EBはD=10 L=1000 または W=30 L=900 以上とする)  
(その他単独の場合、EBはD=14 L=1500 または W=40 L=1200とする)  
ステンレス製または鋼材に溶融亜鉛めっきを施したものとする。  
外気に面する壁、スラブ等で打ちこみとなる位置ボックスは保温、結露防止処理を行う。  
公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）9章 環境配慮改修工事 1節 石綿含有建材の除去工事による。  
処理を行うアスベスト含有建材の仕様等

建材の内容・箇所	仕様等	処理を行う範囲

※ 県有施設の石綿除去に係る施工業者の登録制度による登録業者を活用するものとする。  
※ 官公署その他への手続きは、同仕様書によるほか、労働安全衛生法、大気汚染防止法、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、石綿障害予防規則、鳥取県石綿健康被害防止条例等の関係法令に基づいて行う。  
① 施工調査（分析によるアスベスト含有建材の調査）を行う。  
分析方法はJIS A 1481「建材製品中のアスベスト含有率測定方法」による。  
● アスベスト粉じん濃度測定を行う。  
(測定時期： 測定場所： 測定点： )  
● 洗浄設備（洗眼、うがいの設備）及び更衣設備等を設ける。  
● 作業場の養生として、処理場所をプラスチックシート等で囲い、外部への粉じん飛散を防止する。  
対象箇所 ( )

一般共通事項  
⑩ 補修など  
⑪ はつり  
⑫ はつり工事における非破壊検査  
⑬ あと施工アンカー  
34 室内空気中の化学物質の濃度測定  
35 火災保険等  
36 鳥取県公共事業環境配慮指針  
37 建築物工手法  
1 照明器具  
2 一般照明の照度測定  
3 非常用照明の照度測定  
4 照明制御の照度測定等  
② 1 機器への接続 ※ 電動機などへの接続は本工事とする。 ● 別途工事  
3 1 大地抵抗率の測定 ● 工事着手前に大地抵抗率を測定し、測定表及び接地極省略判定記録書を監督職員に提出する。  
2 外部雷保護設備接地システム ● 構造体利用接地極 ● A型接地極 ● B型接地極  
4 1 変圧器移動車輪 75kVA以上に取付。  
2 デマンド監視装置 ● 本工事 ● 別途工事  
3 盤内照明 前・後に設置する。  
5 1 交流無停電電源装置 (UPS) 停電補償時間 ( 分)  
方式 ( ● 常時インバータ給電方式 ● ラインインタラクティブ方式 ● 常時商用給電方式 )  
6 1 自家発電装置 運転時間 ( h) 系統連系 ( ● 高圧連系 ● 高圧受電低圧みなし連系 ● 低圧連系 ● 無 )  
出力 ( kW) 配電盤外箱 ( ● 有 ● 無 )  
保安装置 ( 重故障項目特記 ● 有 ● 無 ) 外部用端子 ( ● 要 ● 不要 )  
減圧水槽及び初期注水槽の材質 ( ● 鋼板製 ● ステンレス鋼板製 )  
オイルタンク ( ● 地下 ● 屋内 )  
据付：機械設備工事標準図 ( ● 施工30、32 (タンク室無し) ● 施工31、33 (タンク室有り) )  
燃料小出槽 (注)：返油ポンプのあるシステムでフロートスイッチの上限フロートは通過形接点とする。  
材質 ( ● 鋼板製 ● ステンレス製 )  
燃料油等 ( ● 灯油 ● 軽油 ● 重油 ● 燃料ガス ( ) )  
排気系統配管断熱材の厚さ ( mm) ばい煙測定口 ( ● 設ける ● 設けない )  
排気ガスに含まれる窒素酸化物 ( 以下) 運転音 ( dB以下 )  
系統連系 ( ● 高圧連系 ● 高圧受電低圧みなし連系 ● 低圧連系 ● 無 )  
公称最大出力 ( kW) 耐風速 ( m/s )  
パワーコンディショナ ( 相 線式 V) 定格容量 ( kW)  
自立運転機能 ( ● 有 ● 無 )  
表示装置 ( ● 有 ● 無 ) 方式 ( ※ 液晶 ● )  
系統連系 ( ● 高圧連系 ● 高圧受電低圧みなし連系 ● 低圧連系 ● 無 ) 定格出力 ( kW)  
7 1 交換装置 局線応答方式 ( ● 局線中継台方式 ● 分散中継台方式 ● ダイアルイン方式 ● ダイレクトインダイヤル方式 ● ダイレクトインライン方式 )  
停電補償時間 ( 分)  
※ 本工事 ● 別途工事  
※ モジュラージャック ● 電話用プレート  
2 保安器用接地  
3 壁付電話機との接続  
4 回線数 内線 / / 回線 局線 / / 回線 (現用/装架/容量)  
5 電話機 ● 一般電話機 台 ● 多機能電話機 台 ● ファクシミリ 台  
● デジタルコードレス電話機 台 ● IP電話機 台  
6 電話機への配線 卓上電話機1台につき次のものを見込む。  
● ボタン電話機 ( ● EM-BTIEE 0.4-2P ● ) ( ※ 15m ● )  
● 内線電話機 ( ● EM-TIEF 0.65-2C ● TIVF 0.65-2C ) ( ※ 15m ● )  
● 多機能電話機 ( ● EM-BTIEE 0.4-2P ● ) ( ※ 15m ● )  
● IP電話機 ( ● EM-UTP 0.5-4P ● ) ( ※ 15m ● )  
8 1 マルチサイン装置 イメージサイン ( ● 設ける ● 設けない )  
2 出退表示装置 制御装置 ( ● 壁掛形 ● 埋込形 ● 据置形 )  
呼出機能 ( ● 有 ● 無 ) 方式 ( ● 発光ダイオード ● 液晶 ● )  
3 時刻表示装置 親時計 ( ● 壁掛形 回線 ● ラック形 回線 )  
太陽電池式屋外時計 ( 点灯時間 h 点灯保証日数 日 )  
9 1 プロジェクタ 光出力 ( ● I形 ● II形 ● III形 ) 解像度 ( ● A形 ● B形 ● C形 )  
コントラスト比 ( ● X形 ● Y形 )

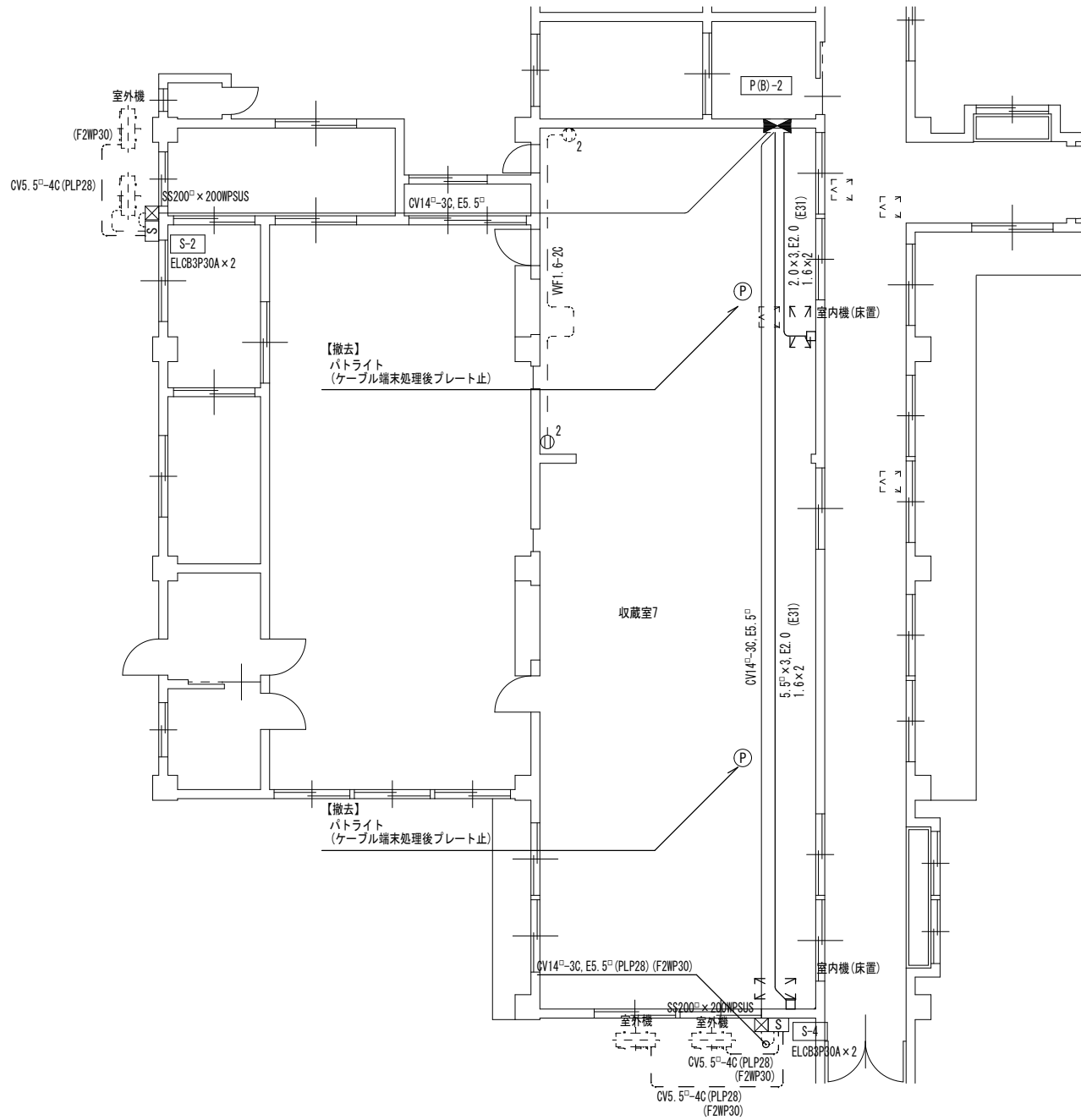
10 増幅器 形式 ( ● 卓上形 ● ラック形 ) 定格出力 ( W) 性能 ( ● Hi形 ● Lo形 )  
● 増幅器の入出力配線と外部配管 (壁ボックス等) の接続はコネクタによる。  
11 1 音声誘導装置 検出方式 ( ● 磁気方式 ● 無線方式 ● 画像認識方式 )  
12 1 自動火災報知設備 受信機 ( ● 型 級 回線 (番積型) ● 複合形 ● 単独形 )  
2 自動閉鎖設備 ● 防火戸用 ( ※ ラッチ式 ● 電磁式 )  
● 防煙ダンパー用 ( ※ 電動復帰 ● 手動復帰 )  
● 防火シャッター用 ( ※ 別途工事 ● 本工事 )  
3 ガス漏れ火災警報設備 検知器 ( ● 天井取付形 ● 壁取付形 )  
13 1 施工方法 埋設深さ ※ GL-300以上、舗装のある場合は路盤下-300以上とする。  
● GL-600以上 ( ● 車路 ● 高圧配線 ● 幹線 ● )  
2 地中箱 蓋の記号表示は鋳造流込み (鳥取県又は鳥取県章、及び用途を記入) とし、ハンドホール内のケーブル支持等はマンホールに準じて行う。アスファルト舗装面に使用するハンドホール及び鉄蓋はアスファルト舗装用とする。  
● 閉鎖形 ( ● 軽耐塩形 ● 重耐塩形 ) ● 地絡絶電付 ( ※ 方向性 ● 無方向性 )  
● 避雷器内蔵  
※ 別置制御装置までの制御ケーブルを付属する。  
3 高圧負荷開閉器 高圧ケーブルの両端部にシースの縮み対策 (熱伸縮テープによるシースずれ止め対策等) を行う。  
● 一般形 ● 耐塩形  
● 高圧 ● 低圧  
4 高圧ケーブルの端末部 照明用ポールには配線用遮断器 (トリップ機能なし) 又はカットアウトスイッチ (素通しヒューズ) を内蔵する。ただし、ガーデンライトは除く。  
5 高圧ケーブルの屋外端処理  
6 標識シート  
7 照明ポール  
14 1 施工方法 埋設深さ ※ GL-300以上、舗装のある場合は路盤下-300以上とする。  
● GL-600以上 ( ● 車路 ● )  
2 地中箱 蓋の記号表示は鋳造流込み (鳥取県又は鳥取県章、及び用途を記入) とし、ハンドホール内のケーブル支持等はマンホールに準じて行う。アスファルト舗装面に使用するハンドホール及び鉄蓋はアスファルト舗装用とする。  
● データ回線 ● 電話 ● CATV ●  
3 標識シート  
15 1 調査仕様 図面に記載されていない事項は、すべて (一社) 日本CATV技術協会の「建造物によるテレビ受信障害調査要領」及び「建造物によるテレビ受信障害調査要領 (地上デジタル放送)」の最新版により調査を行い、同協会の技術審査を受けるものとする。  
2 テレビ電波受信障害調査時期 ※ 事前 ● 中間 ※ 事後  
3 受信する受信波及地点数 中継局 波： 地点  
中継局 波： 地点  
4 報告書提出部数 ※ 事前 3部 ● 中間 部 ※ 事後 3部  
16 1 機器取付高 機器取付高は下記を標準とする。ただし、天井高3m以上の場合及び機器の使用に支障がある場合は監督職員と協議する。  
表 名 称 測 点 取付高 (mm)  
電力共通 取用計器 地上～窓中心 1,800～2,000  
引込開閉器 地上～中心 1,800～2,200  
電 分電盤・OA盤・実験盤 床上～中心 1,500 (上端1,900以下)  
スイッチ " 1,300  
" (多機能トイレ) " 1,100  
コンセント (一般) " 300  
電 " (和室) " 150  
" (台上) 台上～中心 150  
" (土間) 床上～中心 800～1,300  
" (車椅子用) " 900  
灯 ブラケット (一般) " 2,100～2,300  
" (落灯) " 2,000～2,500  
" (鏡上) 鏡上端～中心 150  
動 壁掛形制御盤 床上～中心 1,500 (上端1,900以下)  
手元開閉器 " 1,500  
操作スイッチ " 1,300  
構内交換 端子盤 床上～下端 300  
保安器箱 天井下～上端 200  
壁付アウトレット 床上～中心 300  
" (和室) " 150  
電気時計 壁掛形親時計 床上～中心 1,500 (上限1,900以下)  
子時計 " 天井高×0.9  
拡声 壁掛形スピーカ 床上～中心 天井高×0.9  
壁付アツテネータ " 1,300  
2 工事のため送電線及び配電線の近くで作業するときは、事前に中国電力に連絡し、事故防止に努めるものとする。  
Ⅲ. 機 材  
工事に使用する機器及び材料は、図面に仕様等が明記してあるものを除き、原則として標準仕様書に規定するもの及び (一社) 公共建築協会発行の「建築材料・設備機材等品質性能評価事業 設備機材等評価名簿」による。  
ただし、盤類は上記によるほか以下の製造業者とする。  
株式会社 鳥取県 令和6年度 J2400962 東部建築住宅事務所  
株式会社 水電機工業所 株式会社 水電機工業所  
株式会社 小林電機 株式会社 オートメーション  
株式会社 勝業産業 株式会社 増田電機製作所

特記事項

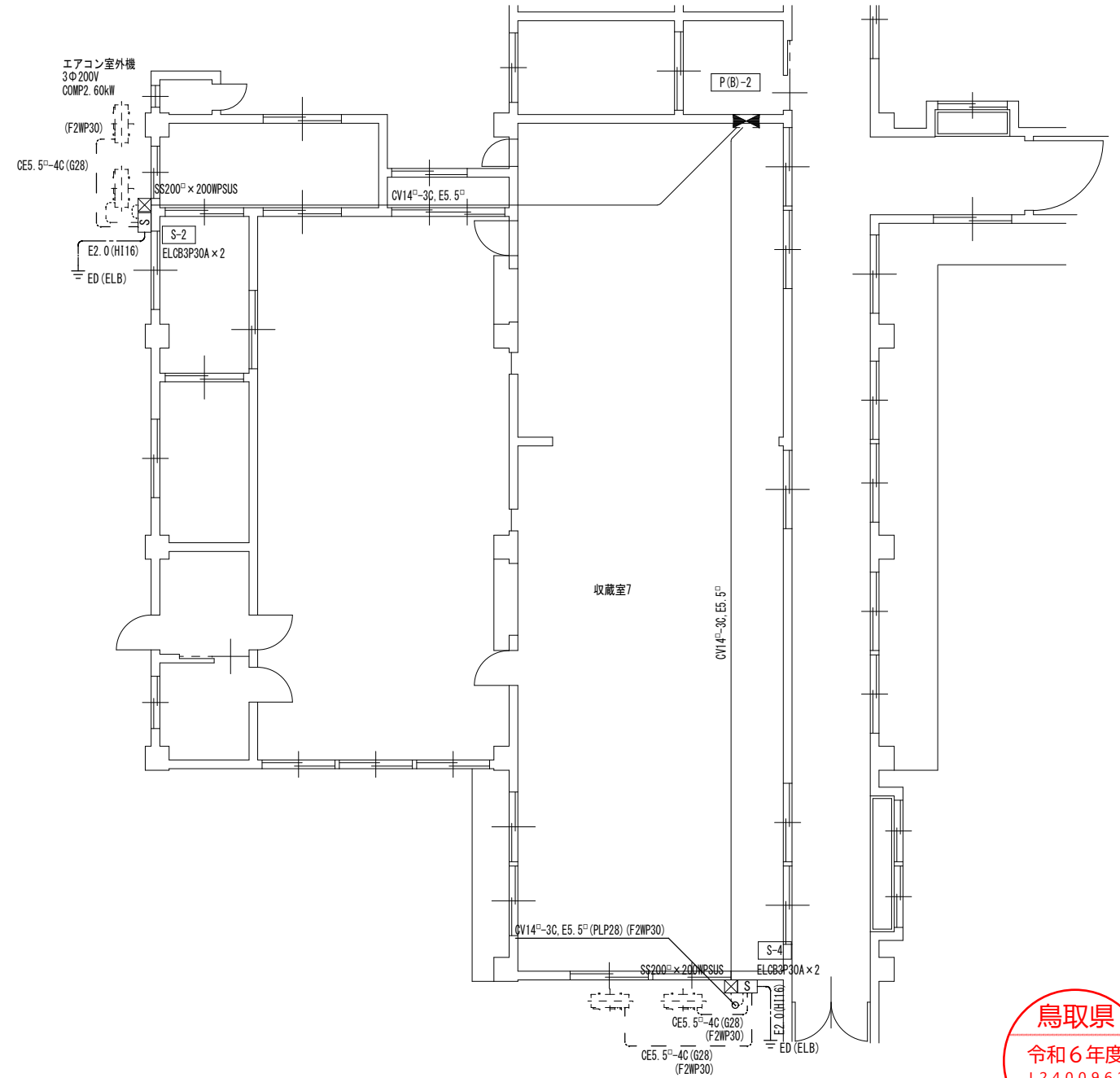
1. 図中太線を改修前 撤去、改修後 本工事とし、細線は既設のままとする。
2. 施工の際は、事前に既設状況を確認すること。
3. ケーブルサイズは、冷暖房機器仕様に合わせてのこと。
4. 撤去のうち、打込配管は配線のみ撤去とする。

凡例

記号	名称	仕様
▶	動力開閉器盤	既設
S	手元開閉器	図示参照
P	パトライト	直付
⊠	プルボックス	図示参照
▽	天井点検口	450口



動力設備 旧サービス棟 1階撤去図 S=1/100



動力設備 旧サービス棟 1階改修図 S=1/100

エアコン室外機 3φ200V COMP2. 10kW  
エアコン室外機 3φ200V COMP2. 60kW

鳥取県  
令和6年度  
J2400962  
東部建築住宅  
事務所

CONSTRUCTION NAME 埋蔵文化財センター積善分館内部改修工事（第二期）（建築・電気設備）

DRAWING NAME 動力設備 旧サービス棟1階 収蔵室7 改修図、撤去図

コダニ建築環境設計(有)  
一級建築士 河野雄一郎 大臣登録 第 376081 号

SCALE 1/100  
PROJECT NO  
DATE R6/11  
DRAWING NO E-03

DRAWING BY 竹田  
CHECKED BY 小谷

翼設備設計

# 埋蔵文化財センター積善分館内部改修工事（第二期） （機械設備）

図面リスト		
図番 No	図名	SCALE
M-00	タイトル・図面リスト	-
M-01	機械設備工事特記仕様書（1）	-
M-02	機械設備工事特記仕様書（2）	-
M-03	付近見取図・配置図	1/600
M-04	全体平面図	1/300
M-05	旧サービス棟1階 改修図、撤去図	1/300
M-06	旧サービス棟1階 計装図	1/300
M-07	旧サービス棟1階 収蔵室7 配管図（改修図）	1/50
M-08	旧サービス棟1階 収蔵室7 計装図（改修図）	1/50
M-09	旧サービス棟1階 収蔵室7 配管図（撤去図）	1/50



CONSTRUCTION NAME 埋蔵文化財センター積善分館内部改修工事（第二期）（機械設備）	コダニ建築環境設計(有) 一級建築士 河野雄一郎 大臣登録 第 376081 号	SCALE -	DATE R6/11	DRAWING BY 竹田	CHECKED BY 小谷
DRAWING NAME タイトル・図面リスト		PROJECT NO	DRAWING NO M-00		



# 機械設備工事特記仕様書

## I. 工事概要

1 工事場所 鳥取市国府町宮下

## 2 建物概要

番号	建物名称	構造	階数	建築基準法による延べ面積 (㎡)	消防法施行令別表第一の区分	備考
1	埋蔵文化財センター積善分館	RC造	2		( ) 項	
2					( ) 項	
3					( ) 項	
4					( ) 項	
5					( ) 項	

## 3 工事種目 (●印の付いたものが対象工事種目)

工事種目	番号	1	2	3	4	5	屋外	備考
● 空気調和設備								
● 冷暖房設備	○							
● 換気設備								
● 排煙設備								
● 自動制御設備								
● 衛生器具設備								
● 給水設備								
● 排水設備								
● 給湯設備								
● ガス設備								
● 浄化槽設備								
● 消火設備								
● さく井設備								
● 電気設備工事								
● 建築工事								

## 4 設備概要 (本工事における工事種目ごとの概要を示すもので、仕様を規定するものではない。)

●印の付いたものを適用する。

項目	設備概要
● 空気調和設備	● 単一ダクト方式 ● 各階ユニット方式 ● ダクト併用ファンコイルユニット方式
● 冷暖房設備	● ファンコイルユニット方式 ● パッケージ方式
● 暖房設備	● 温水暖房 ● 蒸気暖房 ● 温風暖房 ( ● 局所式 ● 中央式 ) ● 床暖房
● 熱源	● 電気 ● 灯油 ● A重油 ● ガス ● バイオマス
● 主要熱源機器	● 鋼製ボイラー ● 鋳鉄製ボイラー ● 真空式温水発生機 ● 無圧式温水発生器 ● テリングユニット ● スクリュー冷凍機 ● 遠心冷凍機 ● 吸収式冷凍機 ● 直置き吸収式冷水機 ● 小形吸収式冷水機ユニット ● バイオマスボイラー ● ルームエアコン ● ヒートポンプパッケージエアコン ( マルチタイプ ● 有 ● 無 ) ● 温風暖房機 ● FF暖房機 ● その他 ( )
換気設備	● 第一種 ● 第二種 ● 第三種
排煙設備	● 機械排煙 ( 適用法規 ● 建基法 ● 消防法 )
自動制御設備	● 電気式 ● 電子式 ● デジタル式
● 給水設備	給水方式 ● 水道直結方式 ● 高置水槽方式 ● ポンプ直送方式 ● 増圧給水方式 水源 ● 水道水 ● 井水
● 排水設備	排水方式 ● 自然流下 ● ポンプ排水 ( ● 汚水 ● 雑排水 ● 雨水 ) 放流先 ● 汚水 ● 公共下水道 ● 浄化槽 ● 雑排水 ● 公共下水道 ● 浄化槽 ● 雨水 ● 公共下水道 ● 側溝 ● 河川 浄化槽 ● 処理方式 ● 小規模合併 ● 合併 ● 処理水放流先 ● 排水路 ● 側溝 ● 河川
● 給湯設備	● 局所式 ( ● ガス ● 油 ● 電気 ) ● 中央式 ( ● 油 ● ガス ● 電気 )
● 消火設備	● 屋内消火栓 ● 屋外消火栓 ● 連結送水管 ● 連結散水 ● スプリンクラー ● 泡消火 ● 粉末消火装置 ● 不活性ガス消火 ( ● 窒素 ● 窒素系 ● ) ● ハロゲン化物消火
● ガス設備	● 都市ガス ( MJ/Nm <sup>3</sup> ) ● 液化石油ガス

## II. 特記仕様

### 1 一般事項

- 現場説明書、質問回答書、特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の標準仕様書等のうち、
  - 印の付いたものによる。
  - 公共建築工事標準仕様書 (機械設備工事編) (令和4年版) (以下「標準仕様書」という。)
  - 公共建築改修工事標準仕様書 (機械設備工事編) (令和4年版) (以下「改修標準仕様書」という。)
  - 公共建築設備工事標準図 (機械設備工事編) (令和4年版) (以下「標準図」という。)
- 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「機械設備工事監理指針 (令和4年版)」 (以下「監理指針」という。)
- 電気設備工事及び建築工事を本工事を含む場合、電気設備工事及び建築工事はそれぞれの標準仕様書等及び監理指針を適用する。

### 2 特記事項

- 項目は番号に ○ 印の付いたものを適用する。
- 特記事項のうち選択する事項は ● 印の付いたものを適用する。
  - 印の付かない場合は、※ 印の付いたものを適用する。 ● 印と ⊗ 印の付いた場合は両方を適用する。
- 

## 一般共通事項

項目	特記事項															
① 官公署その他への手続	工事の施工に伴い必要な官公署その他への手続き、検査並びにその費用は、請負者の負担とする。															
2 電気保安技術者	工事現場における電気保安技術者は、鳥取県総務部営繕工事自家用電気工作物保安規程第5条に定める工事担当技術者の職務を補佐し、当該工事の工事期間中自家用電気工作物の保安の業務を行うものとする。なお、電気保安技術者の資格は標準仕様書第1編第1章第3節1. 3. 2によるものとし、一般用電気工作物にかかる工事についても、自家用電気工作物の場合と同様の業務を行うものとする。															
3 工事安全計画書等	建設工事公衆災害防止対策要綱及び建築工事安全施工技術指針を参考に工事安全計画書を作成し監督職員に提出する。															
④ 発生材の分析及び処理	引渡しを要するもの ※ 無し ● 有り ( ) 引渡しを要するもの以外は、構外搬出適切処理とする。 特別管理産業廃棄物 ※ 無し ● 有り ● 本工事において調査を行う ( ● 廃石綿 (配管用保温材) ● PCB使用機器 ● ) アスベスト含有設備資機材 (ガスケット、パッキン、たわみ継手等の石綿含有廃棄物) は関係法令に従い適切に処理を行う。 PCB使用機器は関係法令等に従い適切に処理する。 除去予定機器の微量PCB分析 ※ 無し ● 有り 再生資源化を図るもの ※ 無し ● 有り ( ● コンクリート塊 ● アスファルトコンクリート塊 ● )															
⑤ 機材等	本工事に使用する設備機材等は、設計図書に規定するもの又はこれらと同等以上の品質及び性能を有するものとする。ただし、これらと同等以上のものとする場合は、設計図書に定める品質及び性能を有することの証明となる資料をあらかじめ監督職員に提出して承諾を受ける。なお、(一社) 公共建築協会発行の「建築材料・設備機材等品質性能評価事業 設備機材等評価名簿」による場合は評価書の写しを監督職員に提出するものとする。															
⑥ 機材の品質・性能証明	JIS等のマーク及び評価書のある機材を使用する場合は、標準仕様書第1編第1章第4節1. 4. 2 (3) の品質及び性能を有することの性能を有することの証明となる資料の提出を省略できる。ただし、標準仕様書に規定される製作図、試験成績等は除く。															
⑦ 機材の承諾図	機械設備工事機材承諾図様式集 (令和4年版) によるほか、監督職員の指示による。															
⑧ 図形等の表示	機器類は、図示する形状、配管などの取出し位置及び製造品番により、特定製造者の製品を指示、限定しない。															
⑨ 電気容量及び機器表示	機器類の能力、容量等は、原則として表示された値以上とする。															
⑩ 技能士の適用	電動機出力、燃料消費量等は、原則として図面に記載されている値以下とする。 下記により適用する技能士は、適用する工事作業中、1名以上の者が自ら作業をするとともに他の技能士に対して施工品質の向上を図るための作業指導を行う。また、そのものが技能士であることが分かる名札 (下図参考) を常時着用する。 ● 配管 ( ● 1級 ● 2級 ) ● 熱絶縁施工 ( ● 1級 ● 2級 ) ● 冷凍空調機器施工 ( ● 1級 ● 2級 ) ● 建築板金 ( ● 1級 ● 2級 )															
⑪ 施工図等	提出した施工図等の著作権に係わる当該建物に限る使用権は発注者に移譲するものとする。															
⑫ 完成写真等	国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「工事写真撮影ガイドブック機械設備工事編 平成30年版」によるほか、監督職員の指示による。下記のものを出す。															
	<table border="1"><thead><tr><th>区分</th><th>分類・規格</th><th>撮影箇所</th><th>部数</th><th>電子データの提出</th></tr></thead><tbody><tr><td>工事写真</td><td>カラーサービス判</td><td>各工種工程毎</td><td>※ 1部 ● 部</td><td>● 要 ● 不要</td></tr><tr><td>完成写真</td><td>カラーサービス判</td><td>監督職員の指示による</td><td>※ 2部 ● 部</td><td>● 要 ● 不要</td></tr></tbody></table>	区分	分類・規格	撮影箇所	部数	電子データの提出	工事写真	カラーサービス判	各工種工程毎	※ 1部 ● 部	● 要 ● 不要	完成写真	カラーサービス判	監督職員の指示による	※ 2部 ● 部	● 要 ● 不要
区分	分類・規格	撮影箇所	部数	電子データの提出												
工事写真	カラーサービス判	各工種工程毎	※ 1部 ● 部	● 要 ● 不要												
完成写真	カラーサービス判	監督職員の指示による	※ 2部 ● 部	● 要 ● 不要												

## 一般共通事項

### ⑬ 完成図等

区分	名称	部数
※ 完成図原図	完成図 ● 原紙 ⊗ CADデータ ⊗ PDFデータ 施工図 ● 原紙 ● CADデータ ● PDFデータ	1部
※ 完成図 2つ折製本	※ 完成図 ※ 完成図 (縮小版) ● 施工図	※ 2部 ● 部
※ 完成図書 ※ A4版市販ファイル ● A4版黒表紙製本	● 完成図 (縮小版) ※ 主要機器図 ※ 試験成績書	※ 2部 ● 部
※ 保守用説明書 (A4版ファイル)	※ 保守に関する指導案内書 ※ 機器取扱説明書 ※ 主要機器一覧表	※ 2部 ● 部
※ 保証書		1部
※ 官公署の届出書類		1部

● 原図ケース・製本図面の背表紙に「施設コード・部局名称」ラベルを貼り付ける。

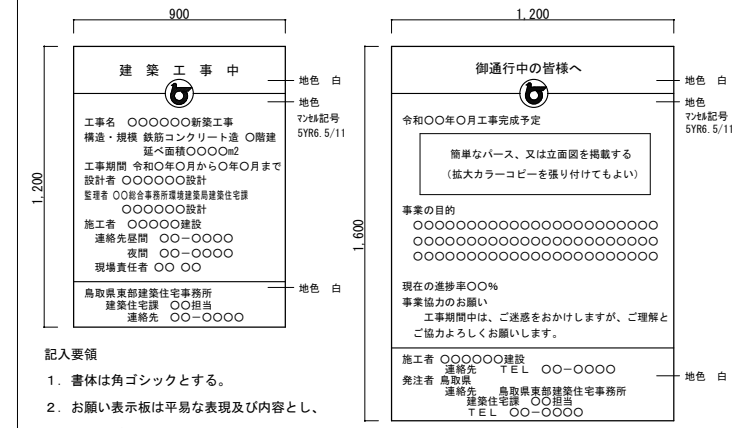
### ⑭ 他工事との取合

他工事との取合い		建築	電気設備	機械設備
● コンクリート壁、床、梁貫通部	スリーブ・箱入 補強	● ● ●	※ ● ●	● ● ●
● 鉄骨造の開口及び補強		※ ● ●	● ● ●	● ● ●
● 照明器具・幹線等の吊りボルト用インサート (くぎ処理共)		● ● ●	※ ● ●	● ● ●
● 軽量鉄骨壁のボックス取付用下地		● ● ●	※ ● ●	● ● ●
● 埋込分電盤・端子盤・プルボックスの仮枠及び埋込部分の補強	仮枠 補強	● ● ●	※ ● ●	● ● ●
● OAフロア・フリーアクセスフロアの切込み及び補強		※ ● ●	● ● ●	● ● ●
● 埋込形機器取付用の天井・壁の切込加工及び下地の補強	切り込み 補強	● ● ●	※ ● ●	● ● ●
● 自動開閉装置を取付ける防火戸の切込み、補強及びドアクロージャ、フロアヒンジ		※ ● ●	● ● ●	● ● ●
● 電気室、自家発電室などの基礎及びビッド (蓋を含む)		※ ● ●	● ● ●	● ● ●
● 天井点検口		※ ● ●	● ● ●	● ● ●
● 機器類のコンクリート基礎	屋内・屋外設置 屋上設置	● ● ●	● ● ●	※ ● ● ●
● 機器付属の制御盤及び操作盤から機器までの配線		● ● ●	● ● ●	※ ● ● ●
● 機器用コントロールスイッチ (空調機、給湯器等) の取付及び配線		● ● ●	● ● ●	※ ● ● ●

### ⑮ 工事用水・電力・その他

### ⑯ 表示板

本工事に必要な工事用電力、水及び諸手続きなどの費用はすべて受注者の負担とする。  
設ける。(寸法等は下図による。建築工事、電気設備工事等と一括して表示する。)  
※ 工事表示板 ● お願い表示板



### 17 足場

「手すり先行工法等に関するガイドライン」に基づく足場の設置にあたっては、同ガイドラインの別紙1「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の(2)手すり据置き方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。

### ⑮ 工事用仮設物

構内に作ることが (ア) 埋め戻し土 (イ) 建設発生土処分

- ※ 出来る ● 出来ない
- 根切土のなかの良質土 ( ● コンクリート管以外の管の周囲は山砂の類 )
- 山砂の類 ( )
- 真砂土 ( )
- 構外に搬出 ● 構内に敷ならし ● 構内の指示する場所に堆積

### ⑯ 保温工事

- 冷温水管 ( ● ロックウール ● グラスウール ● ポリスチレンフォーム )
- 蒸気管 ( ● ロックウール ● グラスウール ● )
- 給水管 ( ● ロックウール ● グラスウール ● ポリスチレンフォーム )
- 排水管 ( ● ロックウール ● グラスウール ● ポリスチレンフォーム )
- 給湯管 ( ● ロックウール ● グラスウール ● 保温チューブ (厚さ①) )
- 消火管 ( ● ロックウール ● グラスウール ● ポリスチレンフォーム )
- ダクト ( ● ロックウール ● グラスウール ● )
- 燃焼熱源等機械室内の配管 ( ● ロックウール ● グラスウール )
- 全熱交換機の給気ダクト ( ● 機器外側 ● 機器室内側 ) は保温 (グラスウール ● ) 工事をする。
- 冷媒管の保温外装 屋内 ( ● 樹脂製化粧ケース ● 合成樹脂製シート )
- 屋外 ( ● 樹脂製化粧ケース ● SUS鋼板 ● )

CONSTRUCTION NAME	埋蔵文化財センター積善分館内部改修工事 (第二期) (機械設備)
DRAWING NAME	機械設備工事特記仕様書 (1)

**コダニ建築環境設計(有)**  
一級建築士 河野雄一郎 大臣登録 第 376081 号

SCALE	DATE	DRAWING BY	CHECKED BY
NO SCALE	R6/11	竹田	小谷
PROJECT NO	DRAWING NO		
	M-01		

異設備設計

一般 共通 事項	21 鋼管類の防食処置	<p>●ベトログラム系 ●ブチルゴム系 ●熱収縮チューブ及びシート</p> <p>●標準図(施工3) ●(1)絶縁フランジ ●(2)絶縁シート ●(3)絶縁スリーブ ●(4)絶縁ユニオン</p> <p>※合成ゴム製(球形) ●ポリテトラフルオロエチレン製 ●ペローズ形(ステンレス製)</p> <p>※ペローズ形 ●スリーブ形</p> <p>各種機材のうち、下記の部分は塗装しない。(さび止め塗装は除く。)</p> <p>(ア)埋設されるもの(ただし、防食塗装部分を除く) (イ)垂鉛めっき以外のめっき仕上げ面</p> <p>(ウ)垂鉛めっきされたもので、常時隠ぺいされる部分 (エ)垂鉛めっきされた金属電線管、鋼製架台及び支持金物類</p> <p>(オ)樹脂コーティング等を施したもので、常時隠ぺいされる部分 (カ)カラー垂鉛鉄板面</p> <p>(キ)アルミ、ステンレス、銅、溶融アルミニウム-亜鉛鉄板面、合成樹脂製等、特に塗装の必要を認められない面</p> <p>(ク)特殊な意匠の表面仕上げ処理を施した面</p> <p>(ケ)主・各階機械室内等及び電気室内の垂鉛めっきされた露出ダクト及び露出配管</p> <p>●上記及び標準仕様書によらず塗装を施す部分・箇所( )</p>																																										
	22 絶縁継手																																											
	23 防振継手																																											
	24 伸縮管継手																																											
	25 塗装																																											
	26 ステンレス鋼管の接合方法																																											
	27 溶接配管の検査	<p>●ガス配管 ●冷水配管 ●冷却水配管</p> <p>非破壊検査の適用(●放射線透過検査 ●浸透探傷検査又は磁粉探傷検査)</p> <p>抜取率(●標準仕様書による ●%)</p>																																										
	28 埋設表示	<p>●地中埋設標を明示する箇所に設ける。</p> <p>●埋設表示用テープを埋設する。(●ガス管 ●屋外給水管 ●)</p>																																										
	29 支持金物・固定金具	<p>ボンプ、屋外設置機器及びピット内に使用するアンカーボルト、ナットはSUS304製とする。</p> <p>屋外及びピット内の配管、ダクトに使用する支持金物等はステンレス製または溶融亜鉛めっき仕上げとする。</p> <p>下記事項の総合調整を行い、測定結果を監督職員に提出する。</p> <p>○温度 ●湿度 ●風量 ●騒音 ●水量 ●浄化槽放流水質</p> <p>●風速 ●じんあい ●飲料水水質(●一般飲料水適否検査 ●残留塩素測定)</p> <p>●その他水質等(●雑用水 ●空調用流体 ●)</p>																																										
	31 アスベスト含有建材の処理	<p>公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編) 9章 環境配慮改修工事 1節 石綿含有建材の除去工事による。</p> <p>処理を行うアスベスト含有建材の仕様等</p> <table border="1"> <tr> <th>建材の内容・箇所</th> <th>仕様等</th> <th>処理を行う範囲</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>※ 県有施設の石綿除去等に係る施工業者の登録制度による登録を受けている業者を活用するものとする。</p> <p>※ 官公署その他への手続きは、同仕様書ほか、労働安全衛生法、大気汚染防止法、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、石綿障害予防規則、鳥取県石綿健康被害防止条例等の関係法令に基づいて行う。</p> <p>● 施工調査(分析によるアスベスト含有建材の調査)を行う。</p> <p>分析方法はJISA 1481「建材製品中のアスベスト含有率測定方法」による。</p> <p>● アスベスト粉じん濃度測定を行う。</p> <p>(測定時期: ) (測定場所: ) (測定点: )</p> <p>● 洗浄設備(洗眼、うがいの設備)及び更衣設備等を設ける。</p> <p>● 作業場の養生として、処理場所をプラスチックシート等で囲い、外部への粉じん飛散を防止する。</p> <p>対象箇所( )</p> <p>工事の施工に伴い既成部分を汚染又は損傷した場合は、既成にない補修する。</p> <p>既存のコンクリート床、壁などの配管貫通部の穴開けは、原則としてダイヤモンドカッターによる。</p> <p>探査方法 ※電磁誘導式 ●放射線透過検査</p> <p>実施する。</p> <p>工事目的物及び工事材料等工事施工中の事故に伴う損害を補てんするため火災保険等に加入する。</p> <p>(保険の加入期限は、工事完成引渡しまで[概ね工期+21日]とする。)</p> <p>グリーン購入は次のものとする。</p> <p>○空調用機器(パッケージエアコン) ●衛生器具( )</p> <p>●断熱材( ) ●配管材(●再生硬質ポリ塩化ビニル管)</p> <p>●その他( )</p>	建材の内容・箇所	仕様等	処理を行う範囲																																							
建材の内容・箇所	仕様等	処理を行う範囲																																										
32 補修など																																												
33 はつり																																												
34 はつり工事における非破壊検査																																												
35 室内空気中の化学物質の濃度測定																																												
36 火災保険等																																												
37 グリーン購入																																												
38 鳥取県公共工事環境配慮指針																																												
39 建築物省エネ法																																												
40 耐震施工	<p>設備機器の固定は、次に示す設計用地震力に耐える方法とする。ただし、重量1kN以下の一般機器について、製造者の指定する固定方法を採用する場合は、この限りではない。</p> <p>(1) 機器の据付け及び取付け</p> <p>設計用水平地震力は、機器の重量(自由表面を有する水槽その他の貯槽にあっては有効質量) [kN]に、地域係数と次に示す設計用標準水平震度を乗じたものとする。</p> <table border="1"> <tr> <th>設計用標準水平震度</th> <th colspan="2">●特定の施設</th> <th colspan="2">●一般の施設</th> </tr> <tr> <th>設置場所</th> <th>●重要機器</th> <th>●一般機器</th> <th>●重要機器</th> <th>●一般機器</th> </tr> <tr> <td>上層階</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>屋上、塔屋</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">中間階</td> <td>機器</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>防振設置機器</td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">地階・1階</td> <td>機器</td> <td>1.0</td> <td>0.6</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>防振設置機器</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td></td> <td>水槽類</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> <td>0.6</td> </tr> </table> <p>上層階の定義 2～6階建: 最上階、7～9階建: 上層2階、10～12階建: 上層3階、13階建以上: 上層4階</p> <p>中間階の定義 地階、1階を除く各階で上層階に該当しないもの</p> <p>重要機器 ●換気機器 ●空調機器 ●熱源機器 ●防災機器 ●監視制御設備 ●危険物貯蔵装置</p> <p>●火を使用する設備 ●避難経路上に設置する機器 ●水槽類(燃料小出槽を含む)</p> <p>( )</p> <p>(2) 設計用鉛直地震力は設計用水平地震力の1/2とし、水平地震力と同時に働くものとする。</p> <p>(3) 設備機器の耐震支持及びアンカーボルトの許容耐力と選定については、「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」(一財)日本建築センター)を参考にする。</p>	設計用標準水平震度	●特定の施設		●一般の施設		設置場所	●重要機器	●一般機器	●重要機器	●一般機器	上層階	2.0	1.5	1.5	1.0	屋上、塔屋	2.0	2.0	2.0	1.5	中間階	機器	1.5	1.0	1.0	防振設置機器	1.5	1.5	1.5	地階・1階	機器	1.0	0.6	0.6	防振設置機器	1.0	1.0	1.0		水槽類	1.5	1.0	0.6
設計用標準水平震度	●特定の施設		●一般の施設																																									
設置場所	●重要機器	●一般機器	●重要機器	●一般機器																																								
上層階	2.0	1.5	1.5	1.0																																								
屋上、塔屋	2.0	2.0	2.0	1.5																																								
中間階	機器	1.5	1.0	1.0																																								
	防振設置機器	1.5	1.5	1.5																																								
地階・1階	機器	1.0	0.6	0.6																																								
	防振設置機器	1.0	1.0	1.0																																								
	水槽類	1.5	1.0	0.6																																								

1 空気調和設備	① 設計用温湿度条件	<table border="1"> <tr> <th rowspan="3"></th> <th colspan="2">外気条件</th> <th colspan="4">室内(調整目標値)</th> </tr> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="2">一般</th> <th colspan="2">( )</th> </tr> <tr> <th>温度</th> <th>湿度</th> <th>温度</th> <th>湿度</th> <th>温度</th> <th>湿度</th> </tr> <tr> <th>(DB)</th> <th>(RH)</th> <th>(DB)</th> <th>(RH)</th> <th>(DB)</th> <th>(RH)</th> </tr> <tr> <td>夏季</td> <td>33.6</td> <td>%</td> <td>28.0</td> <td>%</td> <td>℃</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>冬季</td> <td>-2.5</td> <td>%</td> <td>19.0</td> <td>%</td> <td>℃</td> <td>%</td> </tr> </table>		外気条件		室内(調整目標値)						一般		( )		温度	湿度	温度	湿度	温度	湿度	(DB)	(RH)	(DB)	(RH)	(DB)	(RH)	夏季	33.6	%	28.0	%	℃	%	冬季	-2.5	%	19.0	%	℃	%
		外気条件		室内(調整目標値)																																					
				一般		( )																																			
		温度	湿度	温度	湿度	温度	湿度																																		
	(DB)	(RH)	(DB)	(RH)	(DB)	(RH)																																			
	夏季	33.6	%	28.0	%	℃	%																																		
	冬季	-2.5	%	19.0	%	℃	%																																		
	2 冷却水	●SGP(白) ●SGP-VA ●SGP-PA																																							
	3 冷水・温水・冷温水	●SGP(白) ●SGP-HVA ●ステンレス鋼管(SUS304)																																							
	4 膨張・空気抜き・補給水管	●架橋ポリエチレン管(ファンコイル機器接続部に限る) ●ポリブテン管(ファンコイル機器接続部に限る)																																							
5 蒸気給気管	●SGP(白) ●ステンレス鋼管(SUS304)																																								
6 蒸気還水管	●SGP(黒)																																								
7 油・油用通気管	●STPG370-Sch40(黒) ●ステンレス鋼管(SUS304)																																								
⑧ 冷媒管	●SGP(黒) ●STPG370-Sch40(黒) ●ステンレス鋼管(SUS304)																																								
9 空調用給水管	●断熱材被覆鋼管																																								
⑩ 空調用排水	●ステンレス鋼管 ●SGP-VA ●SGP(白) ●VP ●5K ●10K																																								
11 弁類	●流量調整弁 ●定流量弁(●ダイヤフラム式流量可変式 ●カートリッジオリフィス形)を取付ける。																																								
12 ファンコイルユニット	(ア) 防塵ダンパー ※ 遠隔復帰式 ●電気式																																								
13 ダンパー	(イ) ピストンダンパー ※ 遠隔復帰式 ●																																								
14 ダクト	● 低圧ダクト ● 高圧1ダクト ● 高圧2ダクト																																								
15 吹出口・吸込口	● 長方形ダクト ● コーナーボルト工法(● 共板工法(動作用電圧(電圧)は0.7A以下とする。)(長辺1500mmを超えるものはアングルフランジ工法とする。)) ● アングルフランジ工法																																								
16 チャンパー等	● 防火区画を貫通するダクトは、その貫通する部分の前後150mmを1.6mm厚鋼板製とする。																																								
17 消音内貼り	ボックス ※ 亜鉛鉄板製 ● グラスウール製																																								
18 瞬間流量計及び流量測定	シーリングディフューザーの接続は、標準図(施工49)を参考とする。																																								
19 定風量・変風量ユニット	接続するダクトの施工が困難な場合はフレキシブルダクトを使用してもよい。																																								
20 温度計	線状吹出口には、(長さ+100)×300×300Hの接続チャンパーを設ける。																																								
21 冷温水管の空気抜き	外壁に面するガラリにチャンパー等を設ける場合には、雨水等を自然に排出できるように勾配をつける。																																								
22 空調機用トラップ	吹出口接続チャンパー及び図示したダクト並びにチャンパー類に内貼する。																																								
23 鋼板製煙道	内貼りチャンパー類の寸法は、外法寸法とする。																																								
24 オイルサービスタンク	吹出口接続チャンパー以外の内貼りしたチャンパーには点検口(原則400×600)を取付ける。																																								
25 地下オイルタンク	形式はビーター管式(コック付)とする。 ● 着脱式 ● 固定式																																								
26 油面制御装置	下記の箇所、若しくは図示により取付ける。																																								
27 フィルター等付属品	● 冷凍機類の冷水出口 ● 瞬間流量計 ● 測定用タッピング																																								
28 パッケージ空調機の能力表示	● 冷凍機類の冷却水出口 ● 瞬間流量計 ● 測定用タッピング																																								
29 防振吊り及び支持金物	● ボイラー又は熱交換器の温水出口 ● 瞬間流量計 ● 測定用タッピング																																								
4 1ダクト	● 冷水ヘッダーの各送り管 ● 瞬間流量計 ● 測定用タッピング																																								
2 排煙口	● ユニット形空調機の冷水水入口 ● 瞬間流量計 ● 測定用タッピング																																								
3 排煙口開放及び復帰方式	● メカニカル形 ● 風速センサー形																																								
4 排煙風量測定	機器付属以外の温度計 ※ 工業用バイメタル式 ● ガード付L形温度計																																								
5 1中央監視制御装置	空気溜りを生ずると思われる配管箇所には、必要に応じて操作の容易な位置に空気抜き弁装置を設ける。																																								
2電源装置	※ 手動 ● 自動																																								
3温度調節器等	自動空気抜き弁装置は標準図による。(施工38(g))																																								
4計装工事の配線	機械室の手動空気抜き配管の保温は分岐から2mの範囲とする。																																								
	トラップ形式はフロートボール式(床置型) ※ FRP製保温型 ● FRP製 ● SUS製																																								
	材質及び厚さ ● SS400(※3.2mm ● 4.5mm) ● SUS(※1.5mm ● 2.0mm)																																								
	煤煙濃度計 ● 取付ける ● 取付けない ● 取付け座を付ける																																								
	煤じん量測定口(80φ×2) ※ 取付ける ● 取付けない																																								
	油面計はゲージ式(側圧計)とする。																																								
	据付け方法 ● 標準図(施工32)(二重殻タンク・タンク室無し) ● 標準図(施工33)(タンク室有り)																																								
	タンクの保護被覆 ● 強化プラスチック ● エポキシ樹脂 ● アスファルト																																								
	基礎杭 ※ 不要 ● 要(※別途工事 ● 本工事)																																								
	土留め工事 ● 要 ● 不要																																								
	タンクローリー用アース端子を設ける。																																								
	油面制御装置の機能 ● 給油ポンプの起動停止 ● 満油警報 ● 減油警報 ●																																								
	● 機器表特記による。																																								
	● 空調機と機のフィルターは、ロールの場合は1本、ユニットの場合は1セットを付属品として納入する。																																								
	インバーター機の表示された能力は、型番で選定する。																																								
	標準仕様書によるほか、中央機械室の冷却水管、冷温水管等の吊り及び支持は防振吊り金物又は防振支持金物で行う。																																								
	※ 亜鉛鉄板製 ● 鋼板製(厚1.6mm)																																								
	形状 ● パネル形 ● スリット形 ● ダンパー形																																								
	取付け ● 天井取付 ● 壁取付																																								
	電気式(遠隔操作) ※ 不要 ● 要																																								
	建築設備定期検査業務標準書2016年版(一財)日本建築設備・昇降機センター)の検査方法に準ずる。																																								

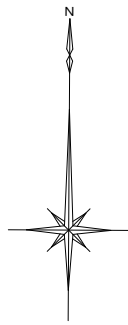
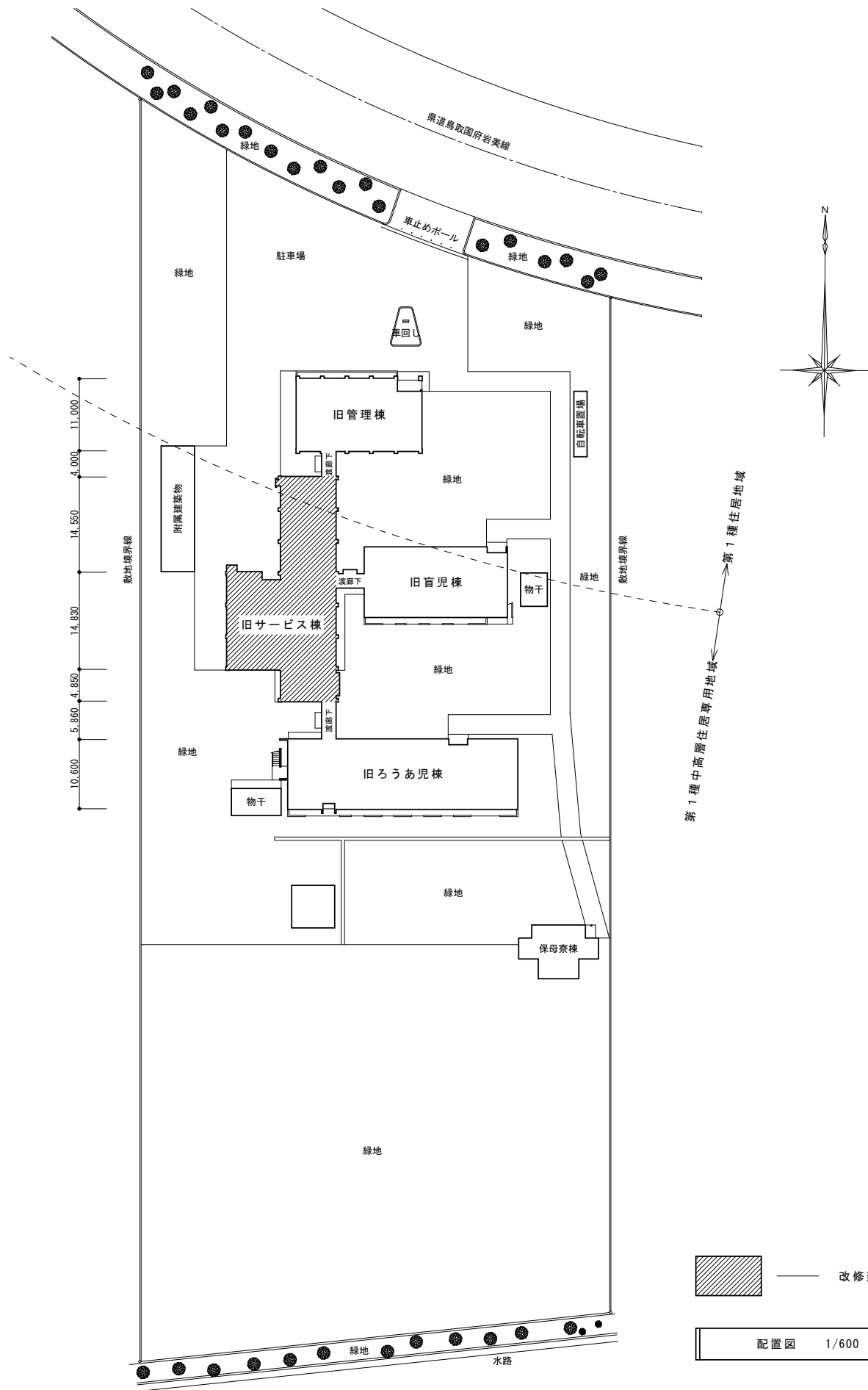
6 衛生器具設備	1 衛生器具の参考型番	型番変更等により参考型番が変更又は廃止されている場合、参考型番の同等品とする。
	2 小便器用節水装置	※ 小便器一体型 ● 小便器分離型
	3 自動水栓	● 洗浄水量4リットル/回以下
	4 大便器洗浄弁	※ 個別感知方式 (●AC電源 ● 自己発電 ● 乾電池) ● 手動式
	5 温水洗浄便座	電源供給方式 ● AC電源 ● 自己発電 ● 乾電池
	6 器具と排水管接続	操作方式 ● 電気開閉式 (● センサー式 ● タッチスイッチ式) ● 手動式
	7 給水設備	洗浄用水加温方式 ● 瞬間式 ● 貯湯式
	8 排水設備	※ 標準図(施工64) ● 標準図(施工65)
	9 給湯設備	1 量水器 ● 親メーター ※ 借用 ● 買取 (※ 直読 ● 遠隔表示)
	10 消火設備	2 配管材料 ● 子メーター ※ 買取 ● 借用 (※ 直読 ● 遠隔表示)
11 ガス設備	(ア) 一般配管 ● SGP-VB ● SGP-PB ● SUS304 ● SUS316	
12 浄化槽設備	(イ) 土間下配管 ● SGP-VD ● SGP-PD ● H1VP ● SUS304 ● SUS316	
13 給湯設備	(ウ) 地中配管 ● SGP-VD ● SGP-PD ● H1VP ● SUS304 ● SUS316	
14 給湯設備	● 水道配水用ポリエチレン管(75~100A) ● 水道用ポリエチレン二層管(50A以下)	
15 給湯設備	(エ) 特記なき給水管の最小口径は20Aとする。	
16 給湯設備	(オ) ビニル管の接合方法 ※ 接着接合 ● ゴム輪接合(直管以外の継手部には離脱防止金具取付とする。)	
17 給湯設備	(カ) ポリエチレン管の接合方法 50A以下 ※ 金属製継手 ● 融着継手 75A以上 ※ 融着継手	
18 給湯設備	※ 口径65A以上の仕切弁及び逆止弁は、ライニング弁とする。	
19 給湯設備	● 5K(受水槽以降の配管に使用) ● 10K(公営水道に直結する配管に使用)	
20 給湯設備	● 公営水道事業者指定の止水栓又は弁(給水引込部に使用)	
21 給湯設備	屋外に設置する水槽のマンホール蓋は保温形(二重蓋含む)とする。	
22 給湯設備	1 配管材料 (ア) 屋内汚水管 ● VP ● RF-VP ● 排水用塩ビライニング鋼管 ● 耐火二層管	
23 給湯設備	(イ) 屋内雑排水管 ● VP ● RF-VP ● SGP(白) ● 排水用塩ビライニング鋼管	
24 給湯設備	(ウ) ボンプ排水管 ● VP(水道用) ● H1VP ● 排水用塩ビライニング鋼管(送排水鋼管用継手)	
25 給湯設備	(エ) 通気管 ● VP ● RF-VP ● SGP(白) ● 排水用塩ビライニング鋼管	
26 給湯設備	(オ) 屋外排水管 ● VP ● RF-VP ● VU(地中) ● REP-VU(地中)	
27 給湯設備	● RS-VU ● 卵形管 ● コンクリート管	
28 給湯設備	3階以上にわたる排水管立て管に満水試験継手を ※ 取付ける ● 取付けない	
29 給湯設備	※ 施工する ● 施工しない	
30 給湯設備	※ 行わなくてもよい ● 図示の系統のみ行う	
31 給湯設備	1 配管材料 ● SGP-HVA ● ステンレス鋼管 ● 架橋ポリエチレン管	
32 給湯設備	● 保温付被覆鋼管 ● 鋼管	
33 給湯設備	湯沸器、給湯機廻りの付属配管等は製造業者標準品とする。	
34 給湯設備	※ 5K ● 10K	
35 給湯設備	1 配管材料 (ア) 一般配管 ● SGP(白) ● STPG	
36 給湯設備	(イ) 土間下配管 ● SGP-VS ● STPG-VS	
37 給湯設備	(ウ) 地中配管 ● SGP-VS ● STPG-VS	
38 給湯設備	※ 10K ● 16K	
39 給湯設備	(ア) 呼水タンク ※ 施工しない ● 施工する	
40 給湯設備	(イ) 充水タンク ※ 施工しない ● 施工する	
41 給湯設備	(ウ) 配管の保温は次による。(屋外露出箇所は種別e3・(ハ)・VIIによる)	
42 給湯設備	● 屋内消火栓用(※ 施工しない ● 施工する) ● スプリンクラー用(※ 施工しない ● 施工する)	
43 給湯設備	● 連結送水用(※ 施工しない ● 施工する) ● 連結散水用(※ 施工しない ● 施工する)	
44 給湯設備	● 広範囲型2号消火栓 ● 易操作性1号消火栓 ● 屋内消火栓(● 1号 ● 2号)	
45 給湯設備	● 素素 ● IG-541 ● IG-55 ● HFC-227ea ● HFC-23	
46 給湯設備	※ 手動 ● 自動手動切替式	
47 給湯設備	1 都市ガス設備 都市ガスはガス供給事業者の供給約款による。	
48 給湯設備	2 配管材料 (ア) 一般配管 ※ SGP(白) ● 合成樹脂被覆鋼管	
49 給湯設備	(イ) 土間下配管 ※ 合成樹脂被覆鋼管	
50 給湯設備	(ウ) 地中配管 ※ 合成樹脂被覆鋼管 ● ガス用ポリエチレン管	
51 給湯設備	3 ガスメーター ● 親メーター ※ 借用 ● 買取 (取付け ※ 別途 ● 本工事)	
52 給湯設備	● 子メーター ※ 買取 ● 借用 (取付け ※ 本工事 ● 別途)	
53 給湯設備	4 バルク貯槽 ● 横型 ● 縦型 ● 借用 ● 買取	
54 給湯設備	5 容器廻りの配管 ● 標準図(施工73)の ● 要領(a) ● 要領(b) ● 要領(c)	
55 給湯設備	6 容器転倒防止 ● 標準図(施工74)の ● 要領(a) ● 要領(b)	
56 給湯設備	7 ガス漏れ警報器 ● 不要 ● 要(※ 別途工事 ● 本工事)	
57 給湯設備	1 処理種別及び方式 ● 小規模合併処理(● 分離接触ばっ気方式 ● 嫌気ろ床接触ばっ気方式 ● その他性能評価を受けた方式( ))	
58 給湯設備	● 合併処理 (● 接触ばっ気方式 ● 長時間ばっ気方式 ● 回転板接触方式)	
59 給湯設備	2 型式 ● ユニット型 ● 現場施工型	
60 給湯設備	3 処理能力 ● 処理対象人員 ● 処理水量 m <sup>3</sup> /d	
61 給湯設備	4 放流水の水質 ● 流入BOD 200mg/L ● 放流水質BOD 20mg/L以下	
62 給湯設備	● T-N mg/L以下 ● T-P mg/L以下	
63 給湯設備	5 排水方式 ※ 自然流下 ● ボンプ排水	
64 給湯設備	6 埋戻し土 ● 砂 ● 根切土の中の良質土	
65 給湯設備	7 土留め工事 ● 不要 ● 要(図示による)	
66 給湯設備	8 マンホールふた ※ 製造者標準仕様(ロック式) ● MHA型(ボルト式)	
67 給湯設備	9 消毒薬 3ヶ月相当分を納入する。	

CONSTRUCTION NAME	埋蔵文化財センター積善分館内部改修工事 (第二期) (機械設備)
DRAWING NAME	機械設備工事特記仕様書(2)

**コダニ建築環境設計(有)**  
 一級建築士 河野雄一郎 大臣登録 第 376081 号

SCALE	DATE	DRAWING BY	CHECKED BY
NO SCALE	R6/11	竹田	小谷
PROJECT NO	DRAWING NO		
	M-02		

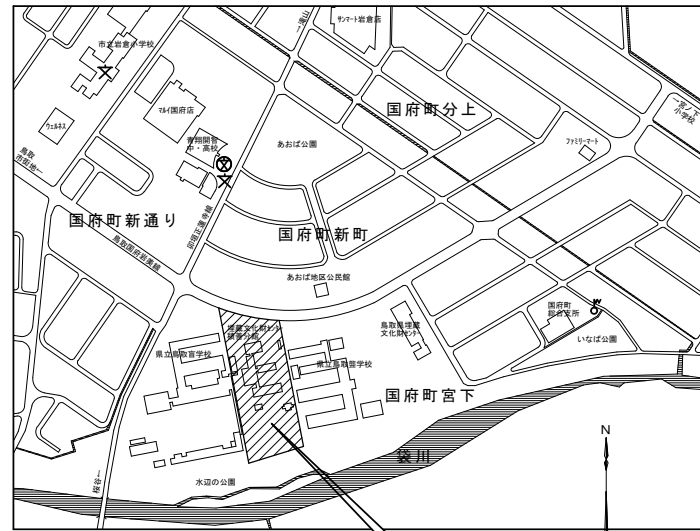




第1種中高層住居専用地域

改修建物を示す

配置図 1/600



付近見取図

CONSTRUCTION NAME	埋蔵文化財センター積善分館内部改修工事（第二期）（機械設備）
DRAWING NAME	付近見取図・配置図

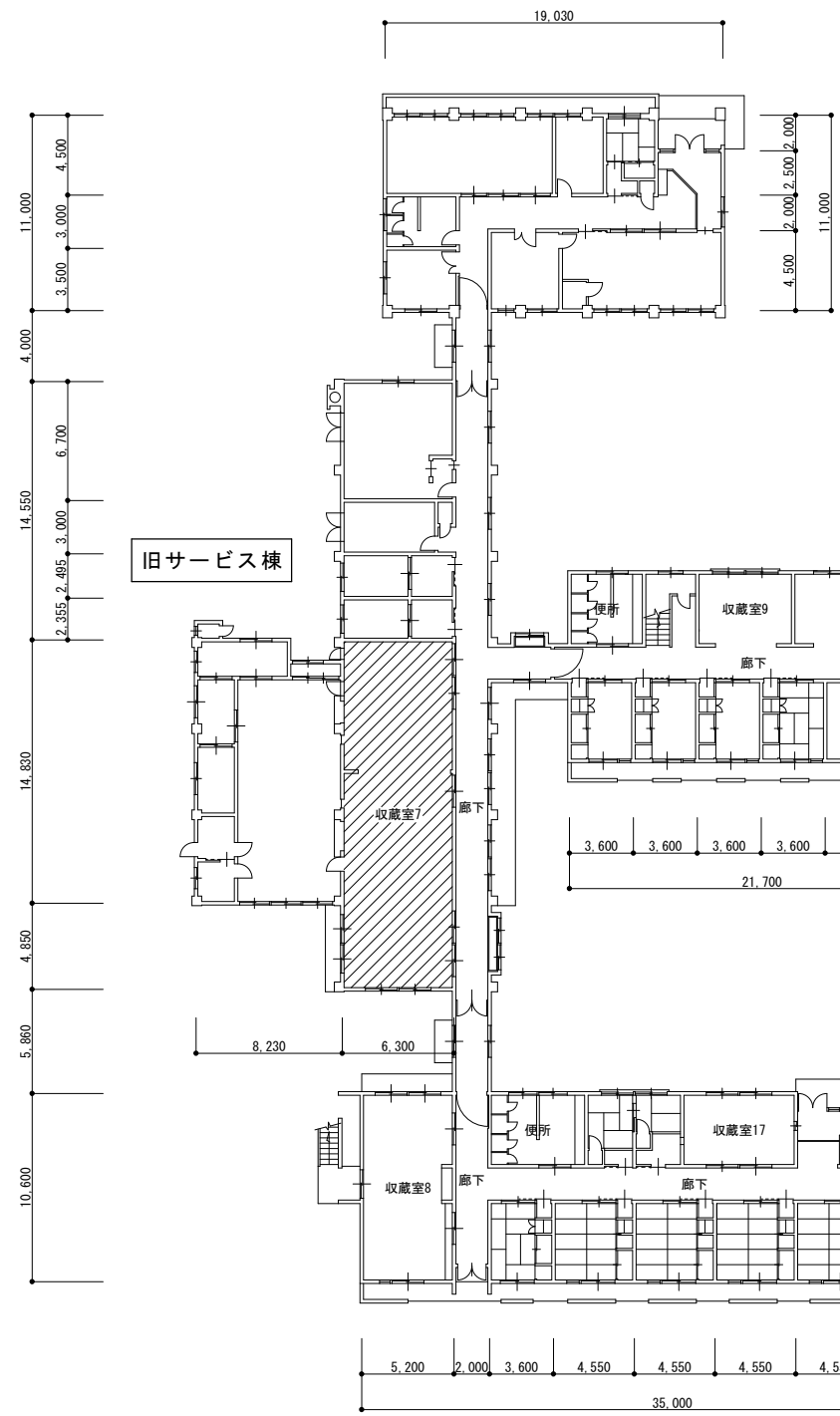
**コダニ建築環境設計(有)**  
 一級建築士 河野雄一郎 大臣登録 第 376081 号

SCALE	DATE
1/600	R6/11
PROJECT NO	DRAWING NO
	M-03

DRAWING BY	CHECKED BY
竹田	小谷

鳥取県  
 令和6年度  
 J2400962  
 東部建築住宅  
 事務所





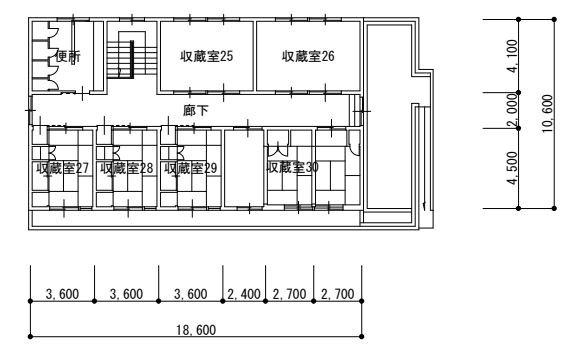
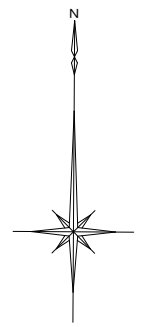
1階平面図 1/300

旧管理棟

旧盲児棟

旧ろうあ児棟

: 改修箇所を示す



2階平面図 1/300

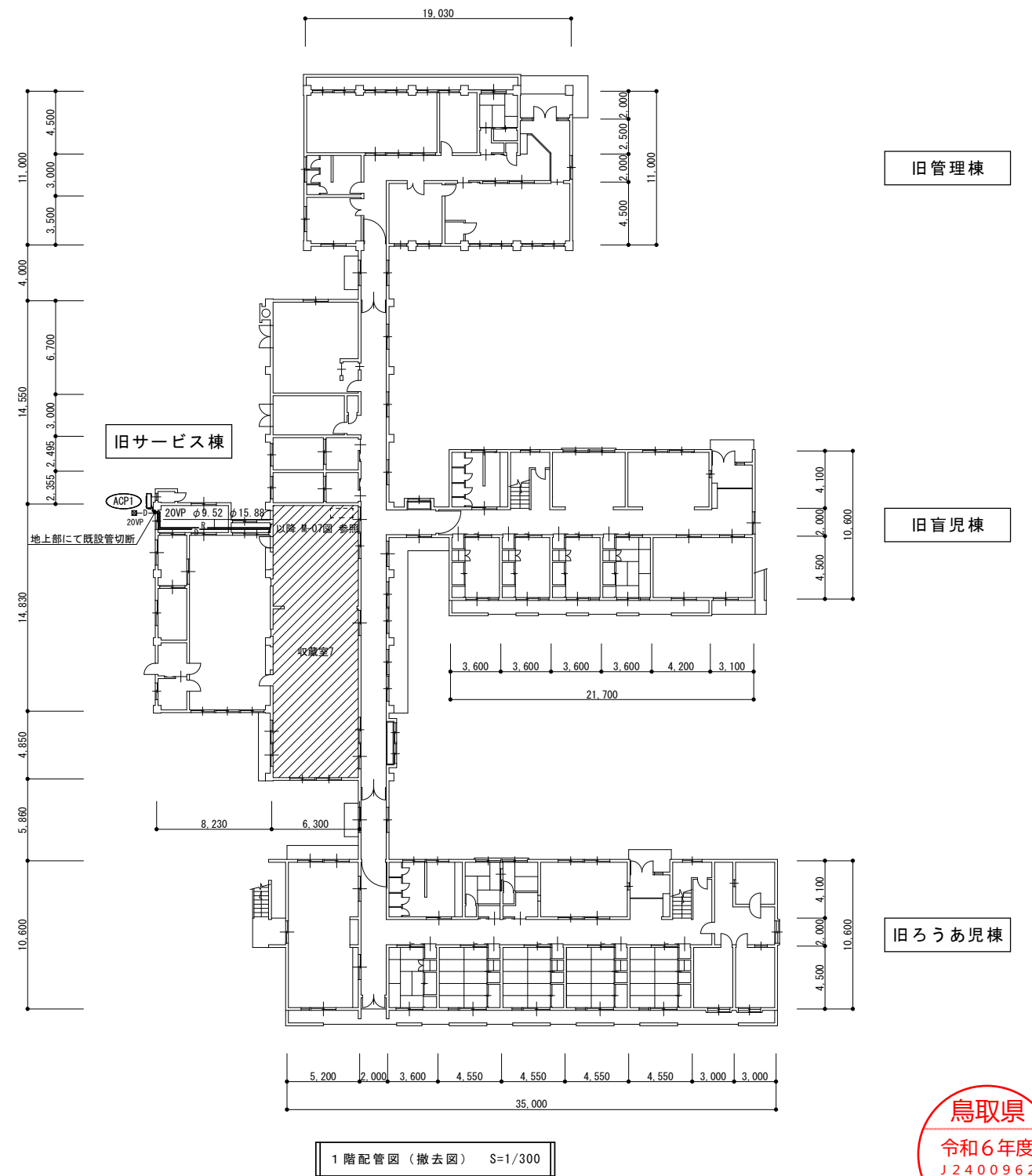
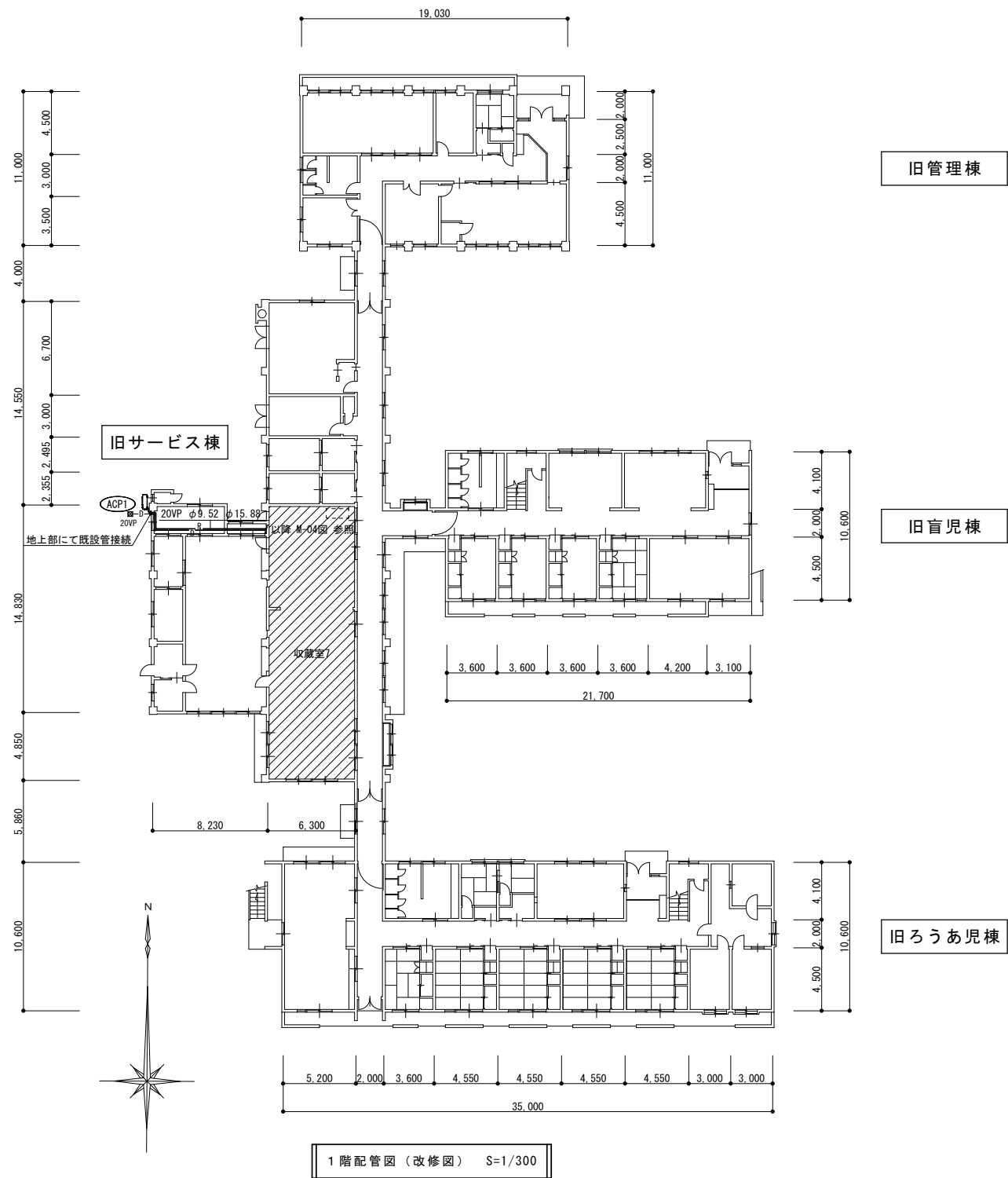
CONSTRUCTION NAME	埋蔵文化財センター積善分館内部改修工事（第二期）（機械設備）
DRAWING NAME	全体平面図

**コダニ建築環境設計(有)**  
 一級建築士 河野雄一郎 大臣登録 第 376081 号


SCALE	DATE
1/300	R6/11
PROJECT NO	DRAWING NO
	M-04

DRAWING BY	CHECKED BY



鳥取県  
 令和6年度  
 J2400962  
 東部建築住宅  
 事務所



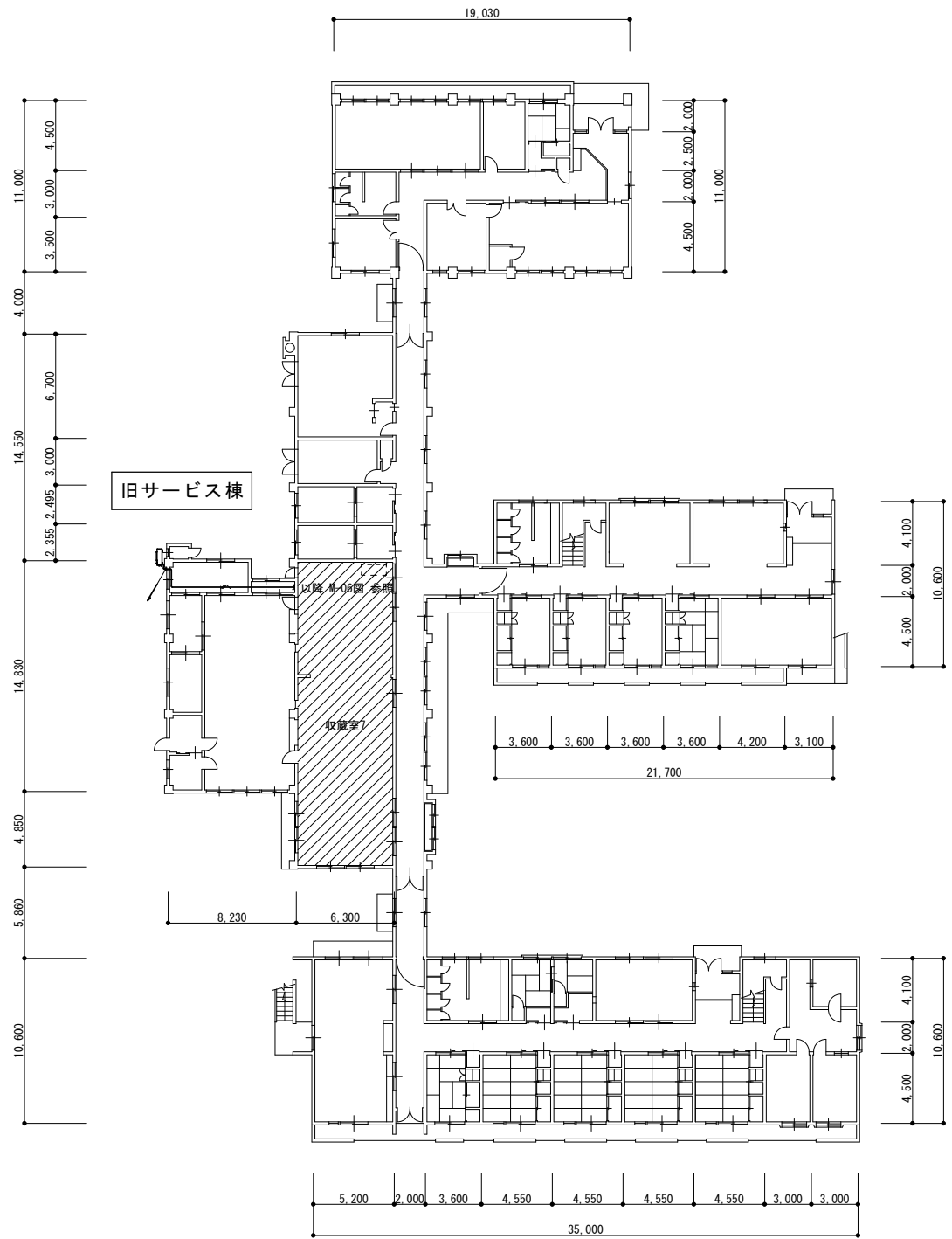
CONSTRUCTION NAME	埋蔵文化財センター積善館内部改修工事(第二期)(機械設備)
DRAWING NAME	旧サービス棟1階 改修図、撤去図


**コダニ建築環境設計(有)**  
 一級建築士 河野雄一郎 大臣登録 第 376081 号

SCALE	DATE
1/300	R6/11
PROJECT NO	DRAWING NO
	M-05

DRAWING BY	CHECKED BY
	

鳥取県  
 令和6年度  
 J2400962  
 東部建築住宅  
 事務所



凡 例	
	室内機-室外機の電源渡り線 EM-EEF 2.0mm-3C E1.6mm (冷媒管共巻)
	リモコン用操作線 EM-MEES 0.75mm-2C (天井内コロガシ・配管内)
	メタルモールA型
	ワイヤードリモコン (ワイヤBOX共) x1箇所
	既存点検口 450口
* 計装配線は各メーカーの仕様による。	

1階計装図 1/300 : 改修箇所を示す

CONSTRUCTION NAME 埋蔵文化財センター積善分館内部改修工事(第二期)(機械設備)  
DRAWING NAME 旧サービス棟1階 計装図

**コダニ建築環境設計(有)**  
一級建築士 河野雄一郎 大臣登録 第 376081 号

SCALE 1/300  
DATE R6/11  
PROJECT NO  
DRAWING NO M-06

DRAWING BY

CHECKED BY

鳥取県  
令和6年度  
J2400962  
東部建築住宅  
事務所

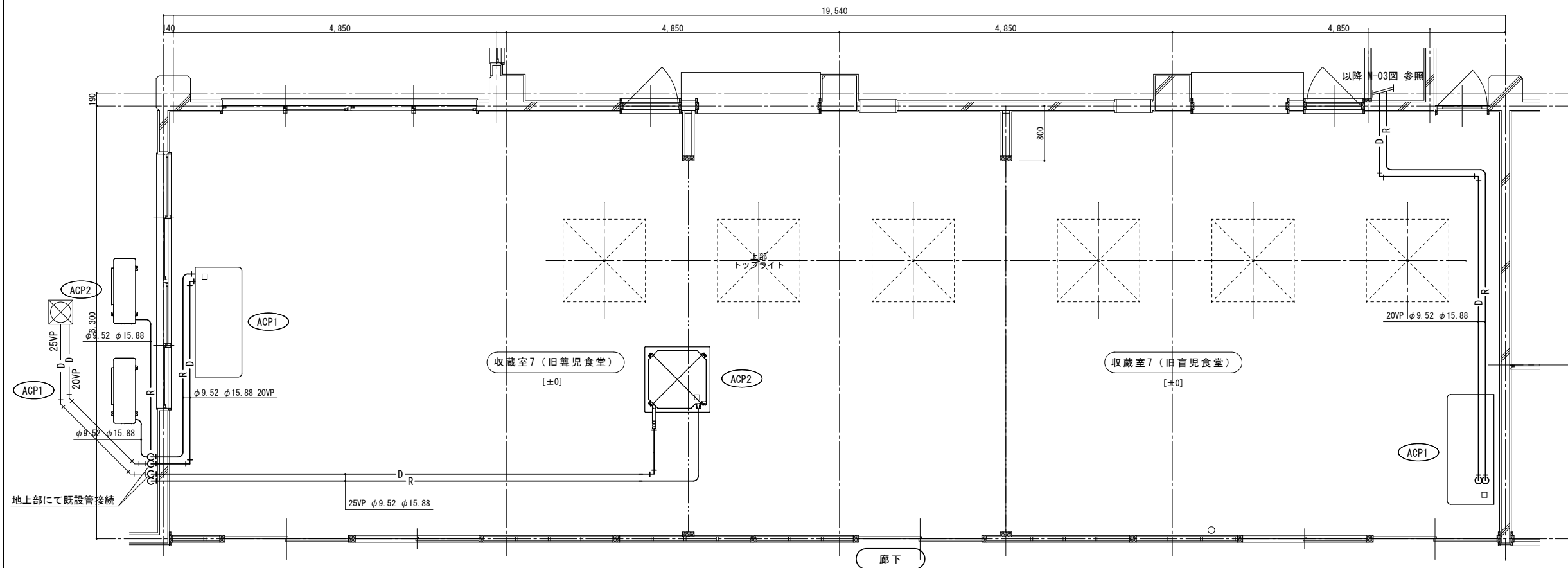


【特記事項】

1. エアコンの冷房能力及び暖房能力は、JIS による。
2. パッケージエアコンはグリーン購入適合品とする。
3. 圧縮機は屋外形とする。
4. 配管仕様は冷媒管は冷媒用被覆銅管、ドレン管はV P管を使用する。(屋外露出はカラーV P)
5. 冷媒用被覆銅管の被覆厚は、液管10mm、ガス管20mmとする。
6. 図中の配管仕様は参考とし、選定したメーカーの仕様に合わせて施工する。
7. 屋内露出・屋外露出冷媒管は、合成樹脂製化粧カバー(S Dダクト)保護とする。
8. 屋内露出ドレン管は、保温チューブ厚10t巻きのうえ冷媒管と並べて施工し、合成樹脂製化粧カバー(S Dダクト)保護とする。
9. 屋外露出ドレン管は、冷媒管と並べて施工し、合成樹脂製化粧カバー(S Dダクト)保護とする。
10. 冷暖房機器撤去は法令を順守し、冷媒ガスの回収・破壊処理を行うこと。
11. 室内機・室外機共、部屋名称・施工業者・施工年月日の表示を入れること。

新設機械器具表

記号	名称	仕様	COMP kw	FAN kw	電源 φ	消費電力 上段 冷房 下段 暖房	数量
ACP1	空冷式 ヒートポンプエアコン	天井吊形 (※1台はドレンUP付)					
		C: 7.1kw (2.0kw ~ 8.0kw) H: 8.0kw (2.0kw ~ 10.2kw)	1.60kw	0.095(内) 0.060(外)	3φ-200V	2.28kw 2.41kw	2
		ワイヤードリモコン 室外機架台(溶融亜鉛メッキ)300H 既製品					
		※既存室外機RC基礎再利用					
ACP2	空冷式 ヒートポンプエアコン	4方向カセット形					
		C: 7.1kw (2.0kw ~ 8.0kw) H: 8.0kw (2.0kw ~ 10.2kw)	1.60kw	0.05(内) 0.06(外)	3φ-200V	1.98kw 2.01kw	1
		ワイヤードリモコン 室外機架台(溶融亜鉛メッキ)300H 既製品					
		※既存室外機RC基礎再利用					



配管図 (改修図) S=1/50

CONSTRUCTION NAME 埋蔵文化財センター積善分館内部改修工事 (第二期) (機械設備)

DRAWING NAME 旧サービス棟1階 収蔵室7 配管図 (改修図)

コダニ建築環境設計(有)  
一級建築士 河野雄一郎 大臣登録 第 376081 号

SCALE 1/50  
PROJECT NO  
DATE R6/11  
DRAWING NO M-07

DRAWING BY

竹田

CHECKED BY

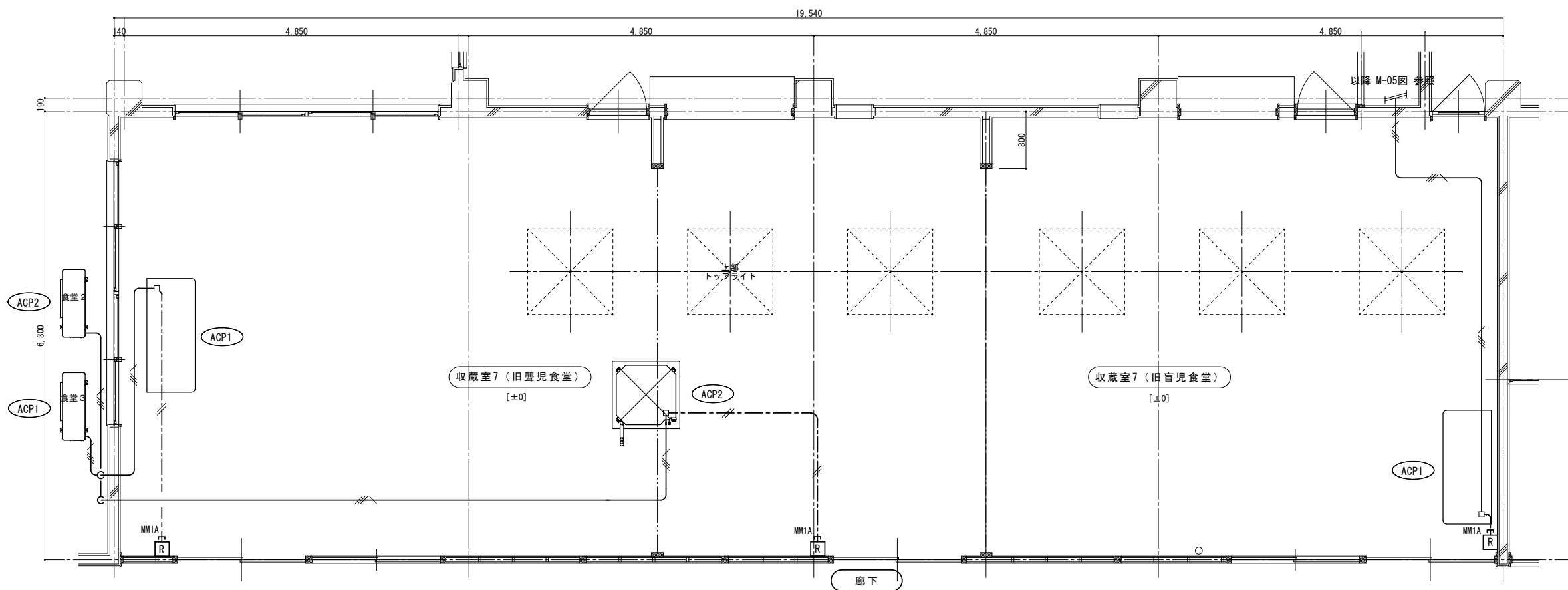
小谷

翼設備設計

鳥取県  
令和6年度  
J2400962  
東部建築住宅  
事務所

凡 例

	室内機-室外機の電源送り線 EM-EEF 2.0mm-3C E1.6mm (冷媒管共巻)
	リモコン用操作線 EM-MEES 0.75mm-2C (天井内コログシ・配管内)
	メタルモールA型
	ワイヤードリモコン (付BOX共) ×1箇所
	既存点検口 450□
* 計装配線は各メーカーの仕様による。	



計装図 (改修図) S=1/50

CONSTRUCTION NAME 埋蔵文化財センター積善分館内部改修工事 (第二期) (機械設備)  
DRAWING NAME 旧サービス棟1階 収蔵室7 計装図 (改修図)

**コダニ建築環境設計(有)**  
一級建築士 河野雄一郎 大臣登録 第 376081 号

SCALE 1/50  
PROJECT NO  
DATE R6/11  
DRAWING NO M-08

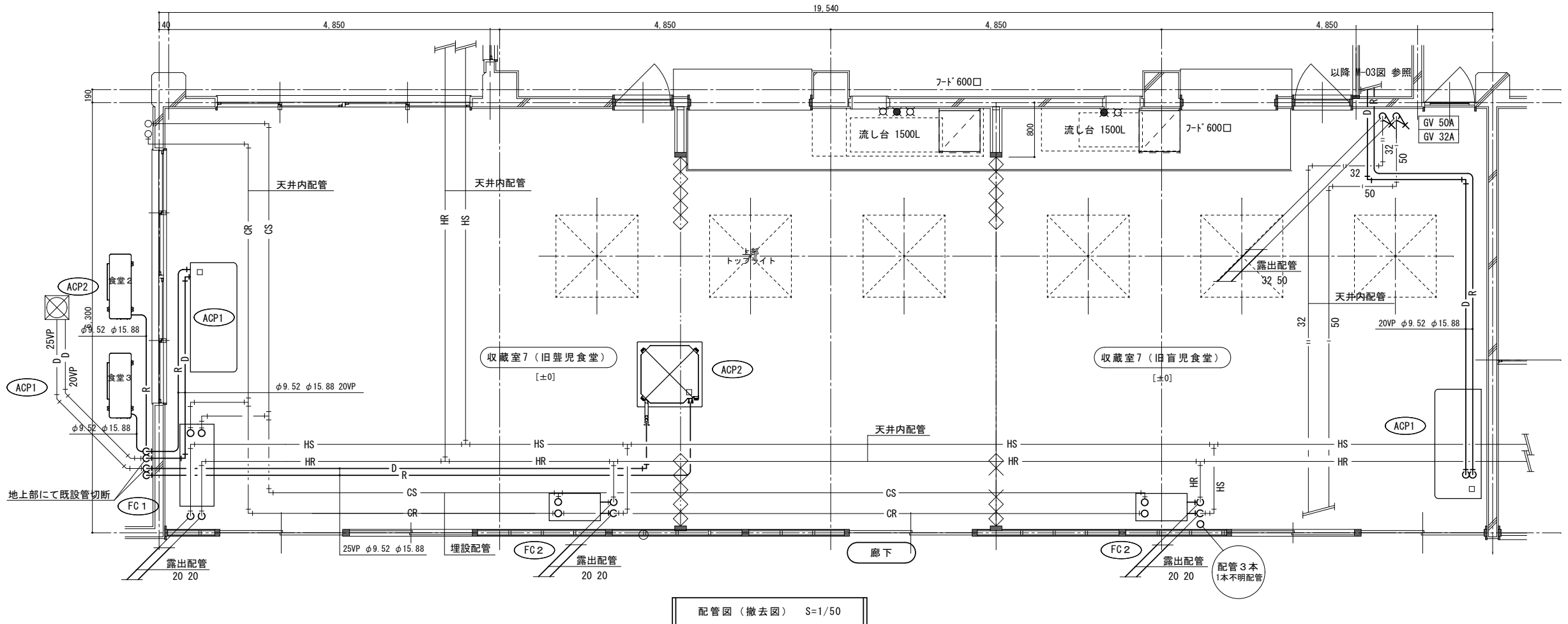
DRAWING BY   
CHECKED BY

鳥取県  
令和6年度  
J2400962  
東部建築住宅  
事務所

- 特記事項**
1. 衛生器具撤去後の給水管はプラグ止めとし、モルタル等で穴埋め補修のこと。
  2. 衛生器具撤去後の排水管はキャップ止めとし、モルタル等で穴埋め補修のこと。
  3. 衛生器具撤去後の不要な取付穴は、白セメント等で穴埋め補修のこと。
  4. 既設ファンコイル配管及び露出配管撤去後の、配管はプラグ止めとする。

撤去機械器具表			
記号	名称	仕様	数量
ACP1	空冷式 ヒートポンプエアコン	天吊形 C:12.5kw H:14.0kw ワイットリモコン共 3φ-200V	2
ACP2	空冷式 ヒートポンプエアコン	4方向射形 C:10.0kw H:12.5kw ワイットリモコン共 3φ-200V	1
FC1	ファンコイルユニット	SP-M75 床置型	1
FC2	ファンコイルユニット	SP-M40N 床置型	2

撤去衛生器具表			
品名	品番	仕様	計
流し台		1500L (一槽)	2
水栓		15A	5
排気フード		600x600	2



配管図 (撤去図) S=1/50

CONSTRUCTION NAME 埋蔵文化財センター積善館内部改修工事 (第二期) (機械設備)  
DRAWING NAME 旧サービス棟1階 収蔵室7 配管図 (撤去図)

**コダニ建築環境設計(有)**  
一級建築士 河野雄一郎 大臣登録 第 376081 号

SCALE 1/50  
DATE R6/11  
PROJECT NO  
DRAWING NO M-09

DRAWING BY 竹田  
CHECKED BY 小谷

